第２次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画

平成３０年度事業評価シート
（協働事業）

No.	1	事業名	自治連合会等活動推進
部名	市民活動部・市民生活部	課名	地域活動推進課・各出張所・各行政センター

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第1章	市民生活		①	地域活動の推進
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流（地域間交流）		地域住民に対し、奈良市自治連合会と協働して、防災防犯、高齢者支援、子どもの見守りといった様々な地域コミュニティ活動への参加を促し、住民の地域コミュニティへの帰属意識向上に努めます。	
	施策	1-01-01	地域コミュニティの活性化			

相手方の名称	奈良市自治連合会、各地区自治連合会	協働事業の実施手法	補助・助成	
実施の時期	通年	事業開始年度	—	
平成３０年度事業費	予算額 14,634	決算額	14,469	（単位：千円）

事業の概要・目的	地域の対話促進及び地域コミュニティの推進に必要な取組みを行う奈良市自治連合会及び各地区自治連合会へ交付金を交付するとともに、地区調整員による住民自治の促進に向けた地域活動支援により、自治会活動の活性化を促す。

目標指標	指標名	自治会加入率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	78.0	79.0	80.0	81.0	82.0
			実績値	75.1	74.1	72.9		

平成３０年度取組内容	奈良市自治連合会及び各地区自治連合会へ交付金を交付するとともに、毎月開催される奈良市自治連合会の役員会、定例会に出席して情報共有しながら、連携・協働した取組を行った。 また、各地区を担当する職員として「地区調整員」を配置し、地区自治連合会を中心とした地域活動の取組みを支援した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	3	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		37	35

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市自治連合会、地区自治連合会の活性化を図ることにより、自治会活動等の地域コミュニティ活動が促進され、地域コミュニティの再生の一助になっている。 また、自治連合会の協力により、各自治会への市政情報等の周知を行っている。	行政と連携し情報を共有することによって、自治会活動等の活性化を図り、地域の安全、安心のまちづくりにつながる。また市の重要課題である新斎苑、クリーンセンター等の建設問題にイコールパートナーとして今後とも継続して取り組んでいくべきである。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	・地区調整員の地域への関わり方が地域によって様々であり、市として統一した基準を設ける必要がある。	地域自治協議会は、地域が元気なうちに取り組み設立する必要がある。今まで以上に行政と地域が協働し、連携が重要になってくる。行政の窓口を一本化し、地域とのパイプを強固なものにする一方、行政間の横のつながりを密に課題を共有してほしい。また、拠点施設の確保整備を重要課題として、市側に検討を促し、地域自治協議会実現に向け確実な一歩を踏み出したい。

No.	2	事業名	奈良市ボランティアセンターの運営
部名	市民活動部	課名	協働推進課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第1章	市民生活		①	ボランティア・NPO活動の活性化
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流（地域間交流）		ボランティア活動の拠点施設として、市民の活動を支援するための奈良市ボランティアセンターの充実を図るとともに、奈良市ボランティアインフォメーションセンターにおいて、より幅広い公益活動に関するきっかけづくりを推進します。	
	施策	1-01-02	市民交流の活性化			

相手方の名称	（社福）奈良市社会福祉協議会	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）	
平成３０年度事業費	予算額 16,782	決算額	16,171	（単位：千円）

事業の概要・目的	市民の地域福祉活動への積極的な参加促進を図るとともに、さまざまな分野で広がりをみせるボランティア活動を支援し、やさしさとふれあいのある住みよい奈良のまちづくりを目指す。

目標指標	指標名	利用人数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	21,400	21,675	21,950	22,225	22,500
			実績値	19,904	19,893	22,068		

平成３０年度取組内容	ホームページや、ボラセンだよりを通してセンターと活動団体の紹介を行い、気軽にセンターを利用してもらうことができた。また、ボランティアインフォメーションセンターとの連携により、相互に利用を促すことができた。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	3	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		38	38

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	ボランティアセンターの設置目的である、市民の自主的な参加による自発的な活動の促進、市民福祉の向上について、指定管理者が指定管理料を効果的に配分しながら、自主事業を展開するなど、費用対効果に優れた管理運営を行うことができた。	市民の自主的な参加による自発的な活動の促進、人材養成を目的とした各種講座参加者へのボランティアポイント導入により、参加者の増加、定着に繋がり、多くの市民に市民公益活動の魅力や意義を伝えることができ、ボランティア活動に繋がるきっかけづくりを行うことができた。 当センター利用者から会議用机の老朽化を指摘されていたが、当センターのみで出来えなかったことを、会議机を新調していただいたことによりボランティア活動の拠点として更なる発展をしていきたい。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も市民活動の拡充、グループ間の交流、活動の支援、利用促進、「災害ボランティアセンター」としての機能の整備などについて、一段と積極的な取組が行われることを期待する。また、活動中の事故が心配であるという利用者の声も多いので、年々増加傾向にあるボランティア活動保険の加入受け付け及び事故対応等を通して、誰もが安心してボランティア活動に取り組みことができる環境づくりに努めていただきたい。	様々な課題解決を協働することに重点をおくことにより、当センター単独では成し遂げれない課題や事業などについて一段と積極的な取組を行えるよう、今後も中間支援組織としての役割を大きく果たすことができると考える。

No.	3	事業名	にぎわいのあるまちづくり事業
部名	総務部	課名	保健所・教育総合センター管理課及びはぐくみセンター内全課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第1章	市民生活		①	ボランティア・NPO活動の活性化
	基本施策	1－01	地域コミュニティ、交流（地域間交流）		協働によるまちづくりを推進するために、市民や自治会などの市民公益活動団体と行政との役割分担を構築し市民相互の活動を支援します。	
	施策	1－01－02	市民交流の活性化			

相手方の名称	JR奈良駅西地区の自治会	協働事業の実施手法	実行委員会・協議会	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成23年度	
平成３０年度事業費	予算額 370	決算額	324	（単位：千円）

事業の概要・目的

地域住民と市職員が協働して「にぎわいのあるまちづくり事業」を実施する。この事業は、市場やコンサート、セミナー等などの集客イベントを実施し、多くの市民の方に、はぐくみセンターを知っていただき有効利用していただくこと、地域の活性化を図ること、JR奈良駅西のまちづくりに寄与することを目的とする。

目標指標

指標名	来館者数の増加						
単位	千人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	200	210	220	220	220
		実績値	204	219	222		

平成３０年度取組内容

①JR奈良駅西まちづくり運営協議会（地域住民と職員）において、年間事業計画を決定した。
②にぎわいのあるまちづくり実行委員会（地域住民と職員）により事業を行った。
　コンサート6回、市場3回、健康講座1回、歴史講座2回、まちづくりセミナー1回、大文字送り火セミナー1回
　山焼き見学会1回
③実行委員の意見や来場者のアンケートにより事業の評価を行った。
④協議会において評価をもとに事業の見直しを行った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点		41	42

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域住民と行政職員が協働して、にぎわい市場やコンサート、セミナー等の集客イベントを継続して行うことにより、来館者数の目標22万人を達成でき、はぐくみセンターの認知度を高めたとともに、施設の有効活用や地域のにぎわいに寄与できた。	地域と行政による協働の姿のモデルとして、にぎわいづくり事業が定着してきた。 来館者数の増加が実績の一つとして評価できる。 「継続は力なり」で互いの立場の違いを乗り越えて実践できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	事業を継続することが必須であるが、市民のニーズにあった事業の立案や、地域住民と行政職員がお互いの特性を生かしつつ協働の意識が高められるような事業や手法を検討していく。	事業がマンネリ化にならないように継続していくこと。また、行政側は人事異動などで担い手が変わるが、やらされ感に陥らないよう理解を求め協力を得るための努力が必要である。一方、地域側も、にぎわいづくりの当事者としての自覚が必要であり、引き続き訴求していくとともに担い手の発掘に努力する。

No.	4	事業名	男女共同参画活動団体協働事業
部名	市民活動部	課名	男女共同参画課

総合計画上の位置付け				展開方向	
	章	第1章	市民生活		① あらゆる分野の政策・方針の決定及び実施の場への男女共同参画の推進
	基本施策	1-02	男女共同参画		男女共同参画の視点を持ち、あらゆる分野で活躍できる女性の人材の育成と活用に努めます。
	施策	1-02-01	男女共同参画社会の実現		

相手方の名称	女性団体等		協働事業の実施手法	共催	
実施の時期	通年		事業開始年度	平成17年度	
平成３０年度事業費	予算額	1,245	決算額	1,245	（単位：千円）

事業の概要・目的	男女が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を市民参画によりめざす。

目標指標	指標名	「市民講座」の受講者アンケートによる満足度を平成32年度を目標に85%にまで上げる。					
	単位	率（満足度）	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	92	70	75	80	85
			実績値	61	66	71		

平成３０年度取組内容	市民団体及び市民グループ企画の市民感覚から発した「市民講座」として市民のニーズに合った講座を開催した。チラシ・ポスター作成、しみんだよりやホームページへの掲載、マスコミ等への広報を行うことで講座の周知を図った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		37	40

総合点	77
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	女性の自立や男女共同参画に関する活動をしている団体から企画案を出してもらうことで市民ニーズに合った内容の講演会やセミナーを開催することを目指した。それらを企画・立案の段階から協働し、様々な意見を事業に反映することで女性団体閣員の社会参画が促進され、男女共同参画社会の実現へと繋がった。	●ポスターやチラシのレイアウトやデザインを考えてもらえて良かった。会場設営などにも配慮いただいている。今回は講師の選定や交渉もスムーズだった。 ●女性問題や教育に関する調査研究や国際理解に関する事業を行い、男女共同参画社会の推進に尽力することを目的に活動しているが、市民講座の協働事業は目的に合致した内容で取り組み出来ている。特に一般市民と一緒に学ぶことは、当団体会員に刺激をあたえている。 ●男女共同参画に関する事業を行うことが会員すべてに、どういうものかなかなか分かってもらえないと感じた。男女共同参画とは、何ぞやという話し合いをする機会を持たなきゃいけないと考えるようになった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	市民講座の満足度においては、目標値に達することができず、内容がニーズに合ったものであったか次回の開催に向けて検討する必要がある。また、団体員の高齢化と加入者の伸び悩み等で事業実施が困難にならないよう団体の育成についても考えていきたい。	●男女共同参画課で求めておられる講演内容と、私達団体の会員様が求めておられる内容に少し開きがあるように思われる。 ●市民講座のアンケートやご意見で評価、反省しているが、次に取り組む検討課題が見えて大いに参考としている。当団体の最大課題は、会員の高齢化と新規加入の勧奨です。団体のＰＲと加入募集にもよい機会と捉えている。 ●事業が台風のために変更になったために、会員が参加が難しくなった。事業内容を、共感する会員と、無関心な会員と別れ講座の内容にも考えさせられた。令和元年には、高齢者が引退することによって、残った会員によって２カ月に一回研修するように、計画を立て、会員全委員が、自分の団体を守っていこうという機運が観られるようになった。

No.	5	事業名	地域人権教育支援事業
部名	市民活動部	課名	人権政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第1章	市民生活		①	人権教育の推進
	基本施策	1-03	人権・平和		地域における人権教育の推進を図るため、奈良市人権教育推進協議会と協働・連携します。そして、地域活動としての人権学習を通して人権問題への認識を深めることにより、全市レベルでの市民意識向上に努めます。	
	施策	1-03-01	人権と平和の尊重			

相手方の名称	奈良市人権教育推進協議会	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	昭和48年度	
平成３０年度事業費	予算額 1,458	決算額	1,458	（単位：千円）

事業の概要・目的	行政と市民との中間団体である「奈良市人権教育推進協議会」と協働し、地域における人権教育の推進を図り、「奈良市人権文化のまちづくり条例」の具体化を図る。

目標指標	指標名	活動地区数の増						
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	40	40	40	40	40
			実績値	33	32	32		

平成３０年度取組内容	運営団体のあり方や地区別研修会、指導者講座、人権講座等の事業実施についての検討を進め、より自主的な活動を行うよう、また、参加者が増えるよう双方協議しながら改善を図った。 平成29年度からを実施している「なるほど！人権講座」を引き続き実施し、地域の中で人権啓発のリーダー的存在になれる人材の育成に取り組んだ。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
	評価点		42	42

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地区別研修会や指導者講座・人権講座等の実施により、地域における人権教育の推進を図り、すべての人が真に尊重される自由で平等な社会の実現と、人と人とのつながりを大切にしたふれあいのあるまちづくりの実現に向けて、一定の成果が得られた。また昨年度に引き続き、地域の人権啓発のリーダー的存在になれる人の育成を目指す「なるほど！人権講座Ⅱ」を開催することができた。	協働開催することで双方向のコミュニケーションを図りながら事業を推進することができ、地区別研修会や指導者講座・人権講座等を充実させることができた。また、各地区や関係団体との信頼関係の構築に結び付けることが出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	講座内容の充実や地区別研修会等の成果を、いかにして地域における人権教育の推進につなげていくか。また各講座等への参加者を増やすためいかに広報していくかが課題である。	未実施地区の解消を図るために地区人推協に積極的な働きかけを行なうことが必要である。また①リーダー養成講座として指導者講座を充実させること、②まちづくりの人権課題を掘り下げることで、実施地区のより自主的な活動を促していきたい。

No.	6	事業名	地域で決める学校予算事業（地域学校協働活動本部）
部名	学校教育部	課名	地域教育課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		①	教育内容の充実
	基本施策	2-01	学校教育		地域教育協議会の強みを生かし、地域と連携した教育活動支援を推進します。	
	施策	2-01-01	特色のある教育の推進			

相手方の名称	地域教育協議会		協働事業の実施手法	委託	
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度	
平成３０年度事業費	予算額	87,260	決算額	85,861	（単位：千円）
事業の概要・目的	中学校区を単位として、地域全体で学校を支援し、子どもたちを守り育てる体制をつくり、子どもたちの教育活動の充実と地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性化を図る。地域と学校が連携・協働し、中学校区で取組む事業と、各学校園で特色のある教育活動を実施するために取組む事業を全中学校区で実施する。				

目標指標	指標名	会計担当者設置校区数						
	単位	校区	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	13	15	17	19	21
			実績値	12	12	14		

平成３０年度取組内容	これまでに引き続き、各中学校区地域教育協議会に事業委託を行うとともに、研修会の開催、意見交換・情報共有の場の設置等、地域教育協議会と学校が「目指す子ども像」を共有した上で、連携・協働しながら地域全体で子どもを守り育てる体制づくりを支援した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		40	39

総合点	79
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	各地域教育協議会と学校がめざす「子ども像」を共有することで、地域全体で子どもを守り育てるという意識がさらに高まった。また、行政・地域・学校の更なる連携がすすみ、子どもたちの学びの場・体験の場が多様になった。	・目標や課題、学校の求める支援や、地域が提供できる情報の共有ができるようになってきた。 ・地域全体で子どもを守り育てる体制ができ、地域の中に子どもたちの豊かな学びの場を作ることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域人材の高齢化・固定化、事業を継続するための次世代の地域人材不足が多くの校区でみられる。広報活動の強化や人材育成を目的とした研修の実施等、地域人材を確保・育成するための工夫が必要である。また、自律的な事業運営をすすめるための工夫を共に考える必要がある。	・各地域の特性に応じた、柔軟な取組が必要である。 ・事務処理の簡略化。 ・小学校や幼稚園、こども園職員への認知を広げる必要がある。 ・地域人材の不足。人材を確保するために、今まで以上により広く、わかりやすく活動内容を広報していく必要がある。 ・行政には長期を見据えた事業方針を求める。 ・行政は広く市民に協働という意識を持てるよう働きかけていく必要があると思う。

No.	7	事業名	教育センター学習事業
部名	学校教育部	課名	教育支援課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		①	教育内容の充実
	基本施策	2-01	学校教育			
	施策	2-01-01	特色のある教育の推進			

相手方の名称	ボランティア団体・NPO法人・民間研究団体	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成23年度	
平成３０年度事業費	予算額 18,679	決算額	17,430	（単位：千円）

事業の概要・目的

教育センター9階は、キッズ学びのフロアとして、プラネタリウム等の設備を活用し、ものづくり体験教室や理科・科学実験教室、天文教室等を開催することで、子どもたちの豊かな学びを保障し、創造性や探究心を育て、奈良で学んだことを誇らしげに語り、たくましく生きていこうとする子どもを育成する。

平日には、学校園を対象とした「わくわくセンター学習」を、休日には、親子等を対象とした「キッズホリデークラブ」を実施する。

目標指標

指標名	民間協力団体の数（学校、営利企業等を除く）						
単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値			9	10	11
		実績値			8		

平成３０年度取組内容

「わくわくセンター学習」、「キッズホリデークラブ」において、親子で体験・制作できる実験や工作の講座を、ボランティア団体、NPO法人、民間研究団体の協力を得ながら開催することができた。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点		41	42

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働によって、行政と民間団体が担うそれぞれの役割について相互理解を深めることができた。	自分たちの特性を損なうことなく事業に携わることができた。また、市や市民へ取組みを知ってもらう良い機会となった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働の取みを理解した上で役割分担をするまでの事前調整が難しい。行政主導となってしまいがちである。	達成目標は同じであるにも関わらず、自分たちがしたいことと、行政が求めていることの調整が難しい。

No.	8	事業名	学校規模適正化検討協議会との協議
部名	教育委員会事務局	課名	教育政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		⑤	施設配置の適正化及び施設の長寿命化の検討
	基本施策	2-01	学校教育		小学校・中学校の規模適正化を実施します。	
	施策	2-01-03	義務教育の充実			

相手方の名称	保護者・地域代表・学校関係者	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成20年度	
平成３０年度事業費	予算額 439	決算額	163	（単位：千円）

事業の概要・目的	奈良市学校規模適正化実施方針及び中学校区別実施計画等に基づき、対象地域において市立小・中学校の規模適正化の推進に向け協議し、地域性等を考慮した個性や特色ある学校づくりをめざす。

目標指標	指標名	規模適正化を必要とする小・中学校						
	単位	校	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	7	4	4	4	4
			実績値	7	4	4		

平成３０年度取組内容	平成28年10月に策定した「中学校区別実施計画(案)後期計画」に基づき、統合再編の対象となっている平城西中学校区（右京小学校、神功小学校）の保護者、地域住民等に対し、学校規模適正化についての説明会を開催した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	
	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	3	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	3	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	
	評価点		35	0

総合点	70
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	学校規模適正化や統合再編について対象地域と話し合うときは、対象地域に保護者・地域住民・学校関係者で構成された「検討協議会」を立ち上げてもらい、そこを通して協議を進めるが、今年度は「検討協議会」の立上げにまで至らなかった。 しかし、地域や保護者への説明会を通じて、様々な思いやニーズを把握することはできた。	
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	まず、協働の土台となる「検討協議会」の立上げが求められる。また、学校規模適正化についての説明会等を通じて、対象地域から、まちづくりや跡地活用等、多岐の分野にわたる様々な意見、要望が出た。それらに対応するためには、今後、関係部署との連携を一層強化し、横断的に対応していく必要がある。	

No.	9	事業名	放課後子ども教室推進事業
部名	学校教育部	課名	地域教育課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		②	地域の教育力の充実
	基本施策	2-02	青少年の健全育成		各小学校区においても、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもたちの安心・安全な居場所を設け、地域ぐるみで子どもを育てる仕組みづくりを進めます。	
	施策	2-02-01	青少年の健全育成			

相手方の名称	各小学校運営委員会		協働事業の実施手法	委託	
実施の時期	通年		事業開始年度	平成19年度	
平成３０年度事業費	予算額	20,828	決算額	20,345	（単位：千円）
事業の概要・目的	子どもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、放課後等に小学校の余裕教室等を活用し、地域の方々の参画を得て活動を進める。勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を、全小学校区で実施する。				

目標指標	指標名	放課後子ども教室の年間実施日数						
	単位	日/校	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	33	34	34	35	35
			実績値	31	31	31		

平成３０年度取組内容	これまでに引き続き、各小学校運営委員会に事業委託を行うとともに、研修会の開催、意見交換・情報共有の場の設定等、各運営委員会・小学校・バンビーホームと連携・協働しながら、子どもたちに多様な教育活動を提供するための支援をした。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**(行政)**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)**協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		42	41

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	子どもの放課後等の居場所づくりだけでなく、コーディネーターやボランティアの参画等により、スポーツや文化・芸術等さまざまな分野の活動の機会を提供することができた。また、地域全体で子どもを見守り、育てるという意識が広がってきた。	・スポーツや文化等様々な活動を通して、子どもたちが目標をもって自発的に行動する力、相手を思いやる心、仲間との協働の大切さを体現し、自己肯定感を養うことができた。 ・地域、学校、保護者との連携・相互理解が深まり、地域ぐるみで子どもを育てる輪が広がった。 ・保護者や地域の方の認知度も少しずつ高まっている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	活動を継続するための地域人材の不足が、多くの運営委員会での課題となっている。人材を確保・育成するためにSNSや報道機関等を利用した広報活動の強化や、育成を目的とした研修を実施する等の工夫を共に考えたい。また、活動日数に大きな差があるため、各教室に訪問した時などに教室運営や小学校運営委員会について確認を行い、活動を充実させるための工夫について共に考えていく必要がある。	・視察にきてほしい。 ・事業協力者の高齢化により、継続的かつ安定的な人材の発掘、確保が課題。 ・事業を継続するには、予算の維持が必要不可欠である。 ・提出書類等の簡略化。 ・予算の使い方について柔軟性を持たせてほしい。 ・協働可能な団体等の情報が不足している。ボランティア団体や公益団体等の情報を提供するしくみがあればよい。

No.	10	事業名	青少年野外体験施設の運営管理
部名	教育総務部	課名	生涯学習課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		③	青少年健全育成活動の推進
	基本施策	2－02	青少年の健全育成		青少年が健やかに成長できる体験の場所や機会を提供します。	
	施策	2－02－01	青少年の健全育成			

相手方の名称	①奈良市黒髪山キャンプフィールド運営協議会 ②特定非営利活動法人 奈良地域の学び推進機構	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	①平成18年度（指定管理者制度導入年度） ②平成21年度（指定管理者制度導入年度）	
平成３０年度事業費	予算額 29,213	決算額	28,093	（単位：千円）

事業の概要・目的	自然環境の中での野外活動、レクリエーション等を通じて青少年の心身の健全な育成を図ることを目指す。

目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	12,040	12,080	12,120	12,160	12,200
			実績値	12,279	12,497	11,888		

平成３０年度取組内容	指定管理者と協議・連携し、快適な施設と魅力的な事業の提供に努めた。また、利用者数の増加を目指し、広報の在り方について創意工夫した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	3
自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	2
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点		36	32

総合点	68
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	指定管理者の経験やノウハウを施設の管理運営に活かすことで、快適で安全な施設の提供が出来た。また、行政としてもHPやしみんだよりに掲載するなど広報面で協力ができた。	お互いにその立場を尊重し、やるべきことの役割を明確にしているため、施設利用者にとっては大いに楽しく効果的であった。施設の楢枯れ対策については未施工の部分があるが一応の成果はあった。 他団体との協働により、新たな自主事業の方向性を構築できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	利用者の固定化が見られるため、新規の利用者を増やすことが必要である。利用者アンケートを基に指定管理者と協議・連携し、広報の手法を工夫する等の効果的なPRを行っていく。	運営協議会役員の全てが現役年代で、仕事を抱えているため時間的制約が厳しい。施設維持管理運営スタッフについては全く問題はない。施設を適切に維持管理していくには現地調査を行い中長期計画修繕計画書の作成が望まれる。

No.	11	事業名	公民館の運営管理
部名	教育総務部	課名	生涯学習課

総合計画上の位置付け			展開方向		
章	第2章	教育・歴史・文化		①	生涯学習活動の推進
基本施策	2-03	生涯学習		地域の課題解決に向けた学習活動を含め、市民の多様な学習に対応できる幅広い内容や人材の確保、機会の充実に努めます。	
施策	2-03-01	生涯学習の推進			

相手方の名称	公益財団法人奈良市生涯学習財団	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)	
平成３０年度事業費	予算額 614,771	決算額	590,167	(単位：千円)

事業の概要・目的

いつでも、どこでも、だれでも学べる学習環境の醸成と整備を促進するとともに、学びの成果が活力ある地域づくりにつながる生涯学習活動を推進する。また、市民の生涯学習活動の拠点となる公民館を管理し、市民が健康かつ豊かな生活を送ることができる機会を提供する。

目標指標

指標名	利用者数の増						
単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	610,000	620,000	630,000	640,000	650,000
		実績値	591,696	610,304	557,845		

平成３０年度取組内容

公民館の事業展開及び施設運営について、市の方針を指定管理者と共有し、協議を行いながら、市民の多様なニーズに応える各種事業を計画・提供するとともに公民館の管理運営を行った。また、地域課題を抽出し解決に向けた取組を行うため、公民館と地域とのつながりを重視し、指定管理者との情報共有に努めた。その他、新たな取組として幅広い分野の団体と連携し、子どもたちが企画運営する事業を実施し、若年層への学習活動を推進した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	3	3
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	3	4
自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	2	
	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		3
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	5
評価点		30	37

総合点	67
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	幅広い分野の団体と連携し、若年層へアプローチする事業を実施することができた。また、市民も多様なニーズに沿った事業を実施し、生涯学習の推進につながった。	市の所管課及び関係機関との連絡調整や協議を行い、市の方針に基づいた事業を実施することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働相手が行政に依存せずに館運営ができるように、自立化に向けた方策を共に検討する必要がある。	市民の多様なニーズに応える事業の計画・実施に向けて、より一層、情報共有を行っていきたい。

No.	12	事業名	おはなし会
部名	教育総務部	課名	中央図書館

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		②	子どもの読書活動の推進
	基本施策	2-03	生涯学習		子どもの読書活動に関わる環境の整備・充実に努めます。	
	施策	2-03-02	図書館の充実			

相手方の名称	ボランティア	協働事業の実施手法	共催	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成20年度	
平成３０年度事業費	予算額 560	決算額	467	（単位：千円）

事業の概要・目的	図書館において「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせ・おはなし・パネルシアター・人形劇などを通して、物語などのすばらしさを伝え、子どもの想像力と豊かな感性を育むとともに、読書への興味へと導いて、子どもの健全育成を図る。

目標指標	指標名	参加人数						
	単位	参加人数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
			実績値	1,590	1,446	1,925		

平成３０年度取組内容	図書館ホームページやチラシ等で、おはなし会の開催を告知した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 4 3 2 1 ← ← → → できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	3	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
	評価点		33	34

総合点	67
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	絵本の読み聞かせだけでなく、ストーリーテリング、パネルシアターなど様々なイベント内容で開催できた。	多くの子ども達に絵本の読み聞かせ、ストーリーテリングなどを通して、読書への興味を広げることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	図書館が本来行うべき事業であるが、協働することにより、より多く開催できている。より多く利用者のニーズに応えるためには、協働できる相手を増やしていく必要がある。	協働するにあたり、ストーリーテリングの勉強会などスキルを磨く機会などを多く作ってもらいた。

No.	13	事業名	市民考古サポーター活動事業
部名	教育総務部	課名	文化財課埋蔵文化財調査センター

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		①	文化財の保護・啓発
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承		文化財保護に関わるボランティア・市民活動などとの連携を促進する。	
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用			

相手方の名称	寧楽考古楽倶楽部	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成21年度	
平成３０年度事業費	予算額 194	決算額	24	（単位：千円）

事業の概要・目的

寧楽考古楽倶楽部は、平成20年度「市民考古サポーター養成講座」の修了者が組織した団体で、発掘調査・遺物整理・展示公開・講演・説明会等、埋蔵文化財調査センターが行う考古学的調査研究、保存活用事業に参加支援し、考古学を自由な立場で楽しみながら学び、その活動を通じ文化財保護へ寄与してもらう。

目標指標

	市民考古サポーターの人員維持						
単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	85	85	100	102	104
		実績値	93	99	106		

平成３０年度取組内容

市の事業計画に対応する形で、2ヶ月毎に活動計画を策定し、遺物整理・展示公開・講演会・市民考古学講座・職場体験学習・発掘調査体験学習を実行する。その後各事業ごとに協働内容を確認し、意見・要望を整理したうえで、倶楽部の役員会において担当職員と役員で今後の方向性等を協議した。
平成30年度には史跡大安寺旧境内に加えて富雄丸山古墳でも発掘調査体験学習を実施し、市民考古サポーターの協力を得て埋蔵文化財活用事業を拡充した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点		42	42

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	多彩な埋蔵文化財の活用事業について、職員と市民考古サポーターとの事前研修を行うことにより、お互い学び合い、専門性の高い活用事業を行うことができた。	発掘調査体験やハニワつくりの体験を通じて考古学の知識が深まり、古代人の秀れた技能に感心するとともに、古墳時代の労働力他への関心が深まった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も協働の機会と内容の充実を図るため、業務内容の検討を行うとともに、活用事業に応じた研修会を設定していきたい。	屋外での作業については、実施時期に配慮をお願いしたい。個人情報保護に配慮しつつセンターの負荷を軽減するために役割分担の見直しを進めること。

No.	14	事業名	文化財講座
部名	教育総務部	課名	文化財課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		①	文化財の保護・啓発
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承		市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及事業の充実を図ります。	
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用			

相手方の名称	文化財関連団体、公益財団法人奈良市生涯学習財団（都跡公民館）等	協働事業の実施手法	共催	
実施の時期	年3回	事業開始年度	共催での実施は平成27年度から	
平成３０年度事業費	予算額 92	決算額	36	（単位：千円）

事業の概要・目的	市民に広く奈良の文化財を周知し、理解と関心を深めてもらい、保護や活用に積極的に関わる契機として、体験学習・見学等を組み合わせた講座を開催する。

目標指標	指標名	協働での実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	3	2	2	2	2
			実績値	3	2	3		

平成３０年度取組内容	従来実施している当該事業の一部を協働で行った。赤膚山元窯保存会との協働では、平成29年度に修理が完了した大型登り窯（登録有形文化財）を活用し、登り窯の見学や解説、窯の入り口をレンガでふさぐ体験や、火が入った窯に薪をくべる体験を含む講座を実施した。都跡公民館との協働では、公民館に隣接する旧田中家住宅（市指定文化財）を活用し、かまどでの炊飯等の昔の暮らし体験を含む講座を実施した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
	評価点		41	41

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	・赤膚山元窯保存会：登録有形文化財の登り窯を活用し、窯元の仕事を体験する講座を開催することで、地域の文化財や伝統工芸を知る機会を提供することができた。 ・（公財）奈良市生涯学習財団 都跡公民館：市指定文化財の民家を活用して、昔のくらしを体験し、学ぶ機会を提供することができた。講座の開催経験が豊富な都跡公民館と協働で行うことで、円滑に講座を進めることができた。	・赤膚山元窯保存会：奈良に伝統工芸、産業があると広められた。また海外からの知名度も上がった。 ・（公財）奈良市生涯学習財団 都跡公民館：文化財についての基礎地意識や地域文化の継承や保護について、専門部署と協働したことで、市民の方々にその重要性や理解を深めてもらうなど、実施目的を果たすことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	・赤膚山元窯保存会：より多くの方に興味を持ってもらえるような講座の内容の検討が必要。参加者の年齢や人数に合わせて、当日の運営計画や説明内容など、事前の準備を十分に行っていきたい。 ・（公財）奈良市生涯学習財団 都跡公民館：ゆとりのある時間配分ができるように、講座内容について十分な打ち合わせが必要。隣接する市指定文化財を公民館の事業で使用してもらうなど、地域の文化財を活用する機会が増えるよう、今後も協力していきたい。	・（公財）奈良市生涯学習財団 都跡公民館：かまどでご飯を炊くという非日常的な体験に、受講生は大変満足していた。今後も旧田中家住宅に、市民の方々の心に残る催しを企画していくことで、文化財保護への理解につなげていきたい。そのために、連絡を密にし、協働を継続していくことが大切と考える。

No.	15	事業名	史料保存館展示関連見学会
部名	教育総務部	課名	文化財課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		①	文化財の保護と啓発
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承		市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及事業の充実を図ります。	
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用			

相手方の名称	NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」	協働事業の実施手法	共催	
実施の時期	年4回	事業開始年度	平成28年度	
平成３０年度事業費	予算額 2,566	決算額	2,562	（単位：千円）

事業の概要・目的	史料保存館の展示テーマに合わせた市内の現地見学と、史料保存館の展示見学を行い、奈良の歴史文化に対する知識を深め、文化財保護の推進を図る。

目標指標	指標名	実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1	4	4	4	4
			実績値	1	4	4		

平成３０年度取組内容	ホームページやしみんだより、ツイッターに解説付きガイドツアー募集の記事を掲載し、NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」の案内で、史料保存館の企画展示及び特別陳列　ならまち歳時記展にゆかりの地を歩く見学会を行った。あわせて同館職員の解説により史料保存館の展示を見学してもらった。また、参加者アンケートを基に今後の事業内容を検討した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
	評価点		42	43

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	ｶﾞｲﾄﾞ付きツアーを通じて、展示だけでは得られない奈良の歴史の面白さを知ってもらえた。また活動を通じて、史料保存館の展示活動や奈良市の歴史資料の価値と継承の必要性について広く知ってもらう機会が得られた。	興味深い企画と様々な広報活動の効果が相まって昨年度比約２０%増のお客様に参加頂きました。史料保存館での専門的な展示・解説に加えてガイド付ツアーで実際に現地を歩くことにより、毎回お客様の高い満足感を得ることが出来たと思います。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	ツアー行程中における接遇均一化と見学先に関する情報の共有化	毎回、本番実施前に下見や史料保存館での見学会などを実施して情報の共有化を図っているが、更に徹底して史料保存館との情報の共有化と質の高いガイドを目指したい

No.	16	事業名	上深川歴史民俗資料館(指定管理)
部名	教育総務部	課名	文化財課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		③	文化財保存・展示施設の整備
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承		史料保存館など文化財保存公開施設の充実を図ります。	
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用			

相手方の名称	奈良市上深川町自治会	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	昭和53年	
平成３０年度事業費	予算額 206	決算額	205	(単位：千円)
事業の概要・目的	地域の文化財保存公開施設として適切に管理を行い、特に当該地域の特色ある文化財である重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開に寄与する運営を行う。			

目標指標	指標名	重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開、施設管理に要する日数						
	単位	日	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	29	28	52	52	52
			実績値	49	50	50		
平成３０年度取組内容	「題目立」の合同練習、現地公開のために開館し、見学希望者への開館も随時行った。そのほか施設維持管理、収蔵資料の保存等のために毎月定期的に点検等を行った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
	評価点		43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	事業の目的である、地域の特色ある文化財の保存伝承に資するうえで、施設の所在する地域と当該文化財そのものを熟知する団体が、施設を管理し運営したことで、当該地域の無形民俗文化財財の保存、伝承に効果を発揮することができた。	地域に伝えられた大切な伝統行事を公開し、関連する資料や装束などを保管して、後世に引き継いでいくための活動の拠点施設を、市と協力して管理運営することができたことで、安定的に伝承活動をすることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	施設公開の機会の拡充、説明資料の充実など見学者への対応をさらに充実させる。	来館者に対する応対や見学資料の作成、その他施設の活用について、さらに市と相談しながら進めていきたい。

No.	17	事業名	ならまちわらべうたフェスタ
部名	観光経済部	課名	奈良町にぎわい課

総合計画上の位置付け			展開方向		
章	第2章	教育・歴史・文化		③	伝統文化の普及と継承
基本施策	2-05	文化振興		伝統文化の普及のために、市民が伝統文化に触れる機会を提供する等の支援を行います。	
施策	2-05-01	文化の振興			

相手方の名称	文化団体・NPO・財団等	協働事業の実施手法	実行委員会・協議会	
実施の時期	10月	事業開始年度	平成5年度	
平成３０年度事業費	予算額 1,732	決算額	1,732	（単位：千円）

事業の概要・目的

わらべうたは子どもたちによって遊びの中で伝えられ、それぞれの時代の子どもの様子や人々の文化が表現されている。このわらべうたを貴重な無形文化遺産と位置づけ広く継承することと、「ならまち」の地域活性化と文化振興を目的にわらべうたをベースとしたおまつりを開催する。

目標指標

指標名	ならまちわらべうたフェスタ協力団体数の増加						
単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	31	32	40	45	50
		実績値	35	35	31		

平成３０年度取組内容

例年同様のわらべうたフェスタを開催し、開催地域の拡大（きたまちエリア）を目指し、さらに大きなイベントとなるよう努めた。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	3	3
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	3
自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	3
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点		36	35

総合点	71
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	各団体の特性を活かし、連携強化が図れた。伴って、当事業の知名度アップと地域のにぎわい創出と活性化に寄与することができた。	目的意識を共有することにより、産官学民が一つの目的に邁進できた
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	当事業を継続するためには、企画のマンネリ化の打開を念頭に置いた。新たな創意工夫と情報共有を図る必要がある。	特になし

No.	18	事業名	奈良市西部会館市民ホール（学園前ホール）の運営
部名	市民活動部	課名	文化振興課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		①	文化の発信と交流
	基本施策	2-05	文化振興		市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。	
	施策	2-05-01	文化の振興			

相手方の名称	日本環境マネジメント株式会社	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成20年度（指定管理者制度導入年度）	
平成３０年度事業費	予算額 40,000	決算額	40,000	（単位：千円）

事業の概要・目的

西部会館市民ホール（学園前ホール）の設置により、市民の連帯感の育成と文化の向上を図るとともに、ふれあい豊かな地域社会づくりをめざす。
指定期間：平成30年4月1日～平成35年3月31日
開館時間：午前9時から午後5時まで（ただし施設の利用は午後9時半まで）
休館日：月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日
西部会館市民ホールの業務内容：①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業（コンサート、講演、文化講座など）

目標指標

指標名	来館者数の増加						
単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	40,000	38,000	38,130	38,750	39,375
		実績値	37,381	35,848	40,967		

平成３０年度取組内容

指定管理を行う日本環境マネジメント株式会社と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点		38	37

総合点	75
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	所管課では把握しきれない施設の現状および施設利用者や事業参加者の意見・ニーズを踏まえ、より効率的な施設管理や事業の企画運営をすることが出来た。	意見交換をする中で、新たな発見や気づきを得ることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	十分な協議を行い目的や問題意識の更なる共有を図るとともに、連携を深め施設や事業の積極的な広報を行っていくべきと考える。	市民に対し情報接触機会を増やすことが課題と考える。そのため事業計画を早目の段階で取りまとめ、告知広報へ反映できればと考える。

No.	19	事業名	北部会館市民文化ホールの運営
部名	市民活動部	課名	文化振興課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		①	文化の発信と交流
	基本施策	2-05	文化振興		市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。	
	施策	2-05-01	文化の振興			

相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成20年度(指定管理者制度導入年度)	
平成３０年度事業費	予算額 32,200	決算額	31,163	(単位：千円)

事業の概要・目的

北部会館市民文化ホールの設置により、市民の自主的な文化活動の促進、教養の向上及び健康の保持を図るとともに、市民の福祉の増進に資する。
指定期間:平成30年4月1日～平成35年3月31日
開館時間:午前9時から午後5時まで(ただし施設の利用は午後9時半まで)
休館日:月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日
北部会館市民文化ホールの業務内容:①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業(コンサート、講演など)

目標指標

指標名	来館者数の増加						
単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	130,000	134,000	128,600	130,700	132,825
		実績値	133,895	128,036	93,080		

平成３０年度取組内容

指定管理を行う一般財団法人奈良市総合財団と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
評価点		38	39

総合点	77
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	所管課では把握しきれない施設の現状および施設利用者や事業参加者の意見・ニーズを踏まえ、より効率的な施設管理や事業の企画運営をすることが出来た。	施設利用をするにあたり、理解をいただき、様々な事業等を展開する事ができた。市のＳＮＳ等による広告発信により、イベントの増員に繋がった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	十分な協議を行い目的や問題意識の更なる共有を図るとともに、連携を深め施設や事業の積極的な広報を行っていくべきと考える。	駅から近いアクセスの良さはあるもののベッドタウン地域であり、まだまだ会館に対する周知は不足していると感じる。市のＨＰや機関紙等で会館のアピールをお願いしたい。

No.	20	事業名	入江泰吉旧居の運営
部名	市民活動部	課名	文化振興課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		①	文化の発信と交流
	基本施策	2-05	文化振興		市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。	
	施策	2-05-01	文化の振興			

相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成26年度(開館年度)	
平成３０年度事業費	予算額 10,500	決算額	5,497	(単位：千円)

事業の概要・目的

入江泰吉旧居の設置により、奈良を愛した写真家入江泰吉の旧居を保存活用し、その業績の顕彰を図り、もって奈良を愛する心を育むとともに、文化の向上に資する。
指定期間:平成27年3月1日～平成31年3月31日
開館時間:午前9時半から午後5時まで(ただし入館は午後4時半まで)
休館日:月曜日、休日の翌日
入江泰吉旧居の業務内容:①旧居の一般公開、②入江泰吉及び写真に関する事業の開催

目標指標

指標名	来館者数の増加						
単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値			6,100	6,200	6,300
		実績値	7,033	5,923	7,387		

平成３０年度取組内容

指定管理を行う一般財団法人奈良市総合財団と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
評価点		38	40

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	所管課では把握しきれない施設の現状および事業参加者の意見・ニーズを踏まえ、より効率的な施設管理や事業の企画運営をすることが出来た。	公の施設であるという事で、入館者に安心感や、信頼感を持たれることが強みである。運営については、一般の民家であるような親しみ易さやくつろぎ感、おもてなしの心等、旧居内のアンケートでは多くの方から高い評価を頂いている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	十分な協議を行い目的や問題意識の更なる共有を図るとともに、連携を深め施設や事業の積極的な広報を行っていくべきと考える。	入江泰吉旧居の事業については、参加者多数の講座もあるが、シリーズとしていつも参加者の集まりにくい講座については、今後事業担当者と意見交換をし、より良い事業にして行きたいと思う。

No.	21	事業名	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」
部名	市民活動部	課名	文化振興課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		④	「東アジア文化都市」事業主旨に基づく施策の実践
	基本施策	2-05	文化振興		文化庁との共催事業である「東アジア文化都市」事業をはじめ、文化でまちを豊かにする施策を推進します。	
	施策	2-05-01	文化の振興			

相手方の名称	奈良市アートプロジェクト実行委員会	協働事業の実施手法	実行委員会・協議会	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成29年度	
平成３０年度事業費	予算額 16,004	決算額	10,732	（単位：千円）
事業の概要・目的	「東アジア文化都市2016奈良市」の成果を引き継ぐため、平成28年12月に「奈良市アートプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、社会課題をアートによって掘り下げ、新たな価値につなげていくための取り組みを進めることになりました。			

目標指標	指標名	事業満足度（大変良いと良いの合計）						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値		80	80	80	80
			実績値		88	87		

平成３０年度取組内容	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」事業を進めるにあたって、実行委員会と協議しながら事業を実施した。 また、実行委員会のみならず、美術や演劇などの各プログラムにおいては、プログラムディレクターが事業の監修を行った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	3	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3
	自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	2	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		3
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	3
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	3
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3
	評価点		31	30

総合点	61
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	本事業の実行委員会は事務局を市におくものの、実行委員会やプログラムディレクターの意見をもとに運営している。 そのため、現在のアートシーンを反映した企画が実施されており、著名な作家・芸術家の参加なども実現している。	市の企画として実施することで、教育委員会や地区社協などの団体協力が得やすい。 また、広報面においても市施設などを通じて周知を行うことができ、一定の効果が得られている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	企画によっては専門性が高く市民に伝わりにくい内容となることがある。企画意図を平易に伝えるよう、実行委員会において工夫が必要である。	事業における将来的なビジョンが明確でなく、単年度の事業実施を繰り返しているように感じる。 今後、計画的な事業展開が必要である。

No.	22	事業名	奈良市都祁交流センターの運営
部名	市民生活部	課名	都祁行政センター地域振興課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		①	文化の発信と交流
	基本施策	2－05	文化振興		市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。	
	施策	2－05－01	文化の振興			

相手方の名称	一般財団法人　奈良市総合財団	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）	
平成３０年度事業費	予算額　30,000	決算額	29,923	（単位：千円）

事業の概要・目的	市民の文化振興と福祉の増進を図るとともに、地域間・世代間交流を促進するための文化活動の拠点となる施設の管理を行う。

目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	16,000	16,100	16,200	16,300	16,400
			実績値	20,456	19,484	19,521		

平成３０年度取組内容	市民への良質なサービス提供の支援を行うため、指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、自主事業の充実を図った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
	自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
	評価点		32	33

総合点	65
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域の豊かな自然、歴史、文化という大きな魅力を掘り起こすための事業を積極的に行った。 また、ファミリー向けのイベントや、高齢者向け等のイベントを開催するなど、気軽にセンターに来館できる環境づくりを行った。	奈良市東部山間地域の各種団体の協力によって幅広い年齢層や市民との交流の場として様々な事業展開が出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	住民ニーズや満足度は複雑化、多様化しており、この変化に対応していくため、環境や地域経済、社会福祉等に配慮した持続可能な自主事業の強化を図る。	文化施設と体育施設の統一した管理運営ができる法整備の推奨

No.	23	事業名	奈良市都祁生涯スポーツセンターコート等4施設の運営
部名	市民活動部	課名	スポーツ振興課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化			－
	基本施策	2-06	スポーツ振興		－	
	施策	2-06-01	スポーツの振興			

相手方の名称	一般財団法人　奈良市総合財団	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成22年度(8月供用開始)	
平成３０年度事業費	予算額　9,900	決算額	9,706	（単位：千円）
事業の概要・目的	市民がスポーツに親しみ健康で明るく豊かな生活を営むことができるよう、安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。			

目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	19,500	20,000	20,500	21,000	21,500
			実績値	15,711	17,731	17,268		

平成３０年度取組内容	案内パンフレット等を配布し、利用者増加及び利用者の地域拡大を図った。まただれでも気軽に参加しやすい自主事業を展開し、その活動に参加する等をして集めた意見を基に、今後の自主事業内容を検討した。7財団を都合したことによってもたらされる総合力をもってトータル的スケールメリットを発揮し運営を行った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	
	評価点		37	0

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域性を考慮した施設運営を行うことができた。	地域のスポーツ団体の活動や合宿での利用など利用率の向上に繋げることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	近隣施設と合宿等のスポーツツーリズムを進めるにあたり、連絡調整が難しい面がある。	大会などの事前予約について、調整が必要なところがある。

No.	24	事業名	奈良市都祁体育館の運営
部名	市民生活部	課名	都祁行政センター地域振興課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第2章	教育・歴史・文化		②	生涯スポーツの推進
	基本施策	2－06	スポーツ振興			
	施策	2－06－01	スポーツの振興			

相手方の名称	一般財団法人　奈良市総合財団	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年）	
平成３０年度事業費	予算額　6,300	決算額	5,374	（単位：千円）
事業の概要・目的	健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯スポーツ宣言地域としてスポーツ・レクリエーションを通じて健康を維持・推進できるよう安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。			

目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	6,300	6,400	10,100	10,200	10,300
			実績値	9,072	10,059	8,542		

平成３０年度取組内容	市民への良質なサービス提供の支援を行うため、指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、自主事業の充実を図った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
	評価点		32	33

総合点	65
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域内の企業や、地域内のスポーツクラブ等との連携により利用促進を図ることができるなど、地域性を考慮した施設の管理運営を行うことができた。	担当課の推奨もあり、奈良電子自治体共同運営システム施設予約サービスを導入することで、奈良市以外の団体・個人の利用が増加した。市内体育施設としての知名度は得られたので、一定の成果はあった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域のスポーツ施設の拠点として、自主事業を積極的に行い自主運営の強化を図る。	文化施設と体育施設の統一した管理運営ができる法整備の推奨

No.	25	事業名	地域福祉活動の支援事業
部名	福祉部	課名	福祉政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		②	地域福祉活動の推進
	基本施策	3-01	地域福祉		地域ごとに作成する地域福祉活動計画の策定を奈良市社会福祉協議会と協働して推進します。	
	施策	3-01-01	地域福祉の推進			

相手方の名称	地区社会福祉協議会	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成16年度	
平成３０年度事業費	予算額 0	決算額	0	（単位：千円）

事業の概要・目的	地域住民の立場から地域特性にあった「地域福祉活動計画」を作成し、住民の福祉活動への理解や参加を促し、住みよい生活環境づくりを実現する。現在46の地区社会福祉協議会があり、住民自治に根ざした地域住民と行政の対等なパートナーシップのもと、連携・協働による福祉のまちづくりをめざす。

目標指標	指標名	地域福祉活動計画の策定地区数						
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	20	26	32	38	46
			実績値	20	25	31		

平成３０年度取組内容	地区社協等の地域福祉に関する活動を行う方々が、共通の目標を持ち計画的に福祉のまちづくりに取組んでいくことができるよう、地域福祉活動計画を策定し、未策定地区については、策定実施に向け積極的に働きかけを行った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		40	40

総合点	80
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市社協を通じて、市社協の地区担当者と地区社協等活動者が地域における福祉課題の解決に向け議論・協議を行い、一部の地域で地域福祉活動計画を作成することができた。	地域福祉活動計画を推進する上で、行政・市社協・地域住民（地区社協）が協働するために、市社協と当該課との協議や、地区社協会長会を通じた行政との協議の場で地域課題や行政施策等の情報共有・協議を図ることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	市社協を通じて未策定の地域については、今後も地域の福祉課題解決に向けた議論・協議が必要と考える。	複雑・多様な今日的な地域課題を解決していくためには行政内の縦割りをなくし、組織横断的な協議の場の設定や制度の狭間の福祉課題に対応するためにも課題解決に向けた組織横断的な庁内の連携体制が必要である。

No.	26	事業名	奈良市月ヶ瀬福祉センターの運営
部名	福祉部	課名	長寿福祉課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		③	地域福祉推進体制の充実
	基本施策	3-01	地域福祉		地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。	
	施策	3-01-01	地域福祉の推進			

相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)	
平成３０年度事業費	予算額 29,200	決算額	28,906	(単位：千円)

事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。

目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	25,500	25,600	25,700	25,800	25,900
			実績値	25,248	24,254	22,206		

平成３０年度取組内容	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、指定管理で、奈良市社会福祉協議会において福祉センターの施設運営を行った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
	評価点		36	36

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織とが協働することで、良好な地域環境を維持することが出来るようになった。地域社会との結びつきも緊密となることでより多くの地域の課題を発見でき、解決に繋げていけることが出来ると感じた。	行政と協働することで、単独では出来ないことへの課題解決ができ、良好な地域環境を維持することが出来るようになった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織と情報の共有を行い、互いの組織で出来ることを確認し補う等の役割分担を行い、今後も地域の福祉課題を解決できるよう取り組んでいく必要がある。	地域福祉をより推進するために、各関係機関と地域組織のネットワーク作りを行っていく必要がある。行政には各関係機関と協働するための協議の場作りに対する支援等を行ってもらい、より関係が密になるよう取り計らってもらいたい。

No.	27	事業名	奈良市都祁福祉センターの運営
部名	福祉部	課名	長寿福祉課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		③	地域福祉推進体制の充実
	基本施策	3-01	地域福祉		地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。	
	施策	3-01-01	地域福祉の推進			

相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)	
平成３０年度事業費	予算額 32,700	決算額	32,694	(単位：千円)

事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。

目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	30,100	30,200	30,600	30,700	30,800
			実績値	23,412	25,950	25,844		

平成３０年度取組内容	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、指定管理で、奈良市社会福祉協議会において福祉センターの施設運営を行った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
	評価点		36	36

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織とが協働することで、良好な地域環境を維持することが出来るようになった。地域社会との結びつきも緊密となることでより多くの地域の課題を発見でき、解決に繋げていけることが出来ると感じた。	行政と協働することで、単独では出来ないことへの課題解決ができ、良好な地域環境を維持することが出来るようになった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織と情報の共有を行い、互いの組織で出来ることを確認し補う等の役割分担を行い、今後も地域の福祉課題を解決できるよう取り組んでいく必要がある。	地域福祉をより推進するために、各関係機関と地域組織のネットワーク作りを行っていく必要がある。行政には各関係機関と協働するための協議の場作りに対する支援等を行ってもらい、より関係が密になるよう取り計らってもらいたい。

No.	28	事業名	奈良市子ども会議開催事業
部名	子ども未来部	課名	子ども政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		②	子育て中の親子の居場所づくり
	基本施策	3-02	子育て		子育てに関する情報について広く周知し、子育て世代が奈良市に住みたい、住み続けたいと感じるまちづくりを目指します。	
	施策	3-02-01	子育て支援の推進			

相手方の名称	市民(原則10～17歳の子ども)		協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年		事業開始年度	平成27年度	
平成３０年度事業費	予算額	900	決算額	664	（単位：千円）
事業の概要・目的	「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」は、子どもたちが今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していけるように、子ども参加によって大人とともにまちづくりを進めることを目的とする。そのためこの条例で規定している子どもが意見表明をし、参加する場として「奈良市子ども会議」を開催する。				

目標指標								
	指標名	奈良市子ども会議参加者の意見表明に対する満足度						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	80	85	90	95	100
			実績値	79.6	80.1	79.7		
平成３０年度取組内容	4回目となる「奈良市子ども会議」では話し合うテーマを「子どもの遊び場」とし、芝辻四丁目緑地という実際の公園の整備について、この公園に地元の人や、また、遠方からでも人が集まる公園になるようにという視点で提案がまとめられ、市長に提出した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	2	
	評価点		37	0

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	子ども参加者から「子どもにやさしいまちづくり」に関して「子どもの遊び場」をテーマに多くの意見をいただき、それらの意見を参考に社会実験イベント「まちの食卓」を開催するなど、子ども参加者の意見を奈良市の施策に反映させることができた。	
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	奈良市の子どもが自主的及び自発的に参加し取り組んでもらえるように、どのようにして子どもたちの関心を高めていくかが課題である。	

No.	29	事業名	子育て親子の集える場の提供
部名	子ども未来部	課名	子ども育成課

総合計画上の位置付け				展開方向	
	章	第3章	保健福祉	②	子育て中の親子の居場所づくり
	基本施策	3-02	子育て	子育て親子の交流の促進や育児相談等ができる地域子育て支援拠点で、地域支援活動の取組を積極的に行い、事業の充実を図ります。	
	施策	3-02-01	子育て支援の推進		

相手方の名称	子育て支援団体(社会福祉法人、NPO法人等) 地区民生児童委員協議会・地区社会福祉協議会等	協働事業の実施手法	委託	
実施の時期	通年または月1・2回	事業開始年度	平成5年度	
平成３０年度事業費	予算額 136,380	決算額	132,619	（単位：千円）

事業の概要・目的

子育て親子（おおむね0～3歳児とその親）を対象に、交流の場の提供と交流の促進、子育て等に関する相談及び援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育て及び子育て支援に関する講習等の多様な子育て支援活動を実施する。

目標指標

指標名	子育て中の親子の集える場の利用者数の増加						
単位	人（年間延べ人数）	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	151,000	164,000	177,000	190,000	190,000
		実績値	159,359	160,874	156,996		

平成３０年度取組内容

子育て親子の集える場において、多様な子育て支援活動を実施し、地域全体で子どもの育ち・親の育ちを支援した。一部の地域子育て支援拠点においては、より利用者に寄り添った支援を実施した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

	協働の原則に基づいた評価項目	行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	5	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
	評価点	41	41

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	子育て支援団体、地区社会福祉協議会については、様々な資源を持つ団体の特色を活かし、市民ニーズに応じた子育て支援を行うことができた。 地区民生児童委員協議会については、地域において積極的に子育て支援に関わることができた。	・行政が間に入ることで、連携がスムーズに行えた。 ・様々な研修を企画してもらえ、支援者の専門性が高まった。 ・子育てナビゲーターが来所することで市民と行政の垣根が低くなり、市民の声が届きやすくなった。 ・それぞれの拠点の多様な情報を集約することで、利用者のニーズに応じた事業を行えた。 ・子育てナビゲーター事業があることで、他の拠点と交流しながら事業を進められた。 ・重篤な問題のある親子について、子育てナビゲータを介して関係機関と連携し取り組めた。 ・連絡会議を定期的に開催したことで、他の広場のスタッフと顔つなぎができ、取組を知ることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	全ての利用者について、各団体の持つ特色を活かした形での地域貢献を求める。	・基礎研修、応用研修等段階的に研修を行ってほしい。 ・行政職員が現場に足を運び、実際に現場を見たうえで意見交換ができるとよい。 ・拠点の立地によって補助金を増額する等運営しやすい拠点づくりを推進してほしい。 ・数値目標ではなく、内容や質の評価を求める。 ・他の拠点と交流し、協議しながら進めていきたい。 ・子育て支援の現場と、行政の達成目標に温度差がある。 ・「地域支援」がなかなか難しい現状がある。

No.	30	事業名	子育て支援アドバイザー
部名	子ども未来部	課名	子ども育成課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		⑤	子育ての相談窓口
	基本施策	3-02	子育て		子育て親子にとって身近な場所で、子育てに関する相談や情報提供を行うとともに、関係機関と連携し、子育て支援の機能強化を図ります。	
	施策	3-02-01	子育て支援の推進			

相手方の名称	個人ボランティア及び子育て支援団体	協働事業の実施手法	委託	
実施の時期	随時	事業開始年度	平成18年度	
平成３０年度事業費	予算額 1,224	決算額	1,224	（単位：千円）

事業の概要・目的

地域の子育て経験豊かな市民を「子育て支援アドバイザー」として登録し、子育て親子が集まる場所に派遣し、子育てに関する相談、助言、情報提供を行い、親の育児の負担感や不安感を軽減する。また、絵本の読み聞かせ、手遊び、親子体操等、子育て支援アドバイザーができる範囲で支援を行う。

なお、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、子育て支援の経験豊富なスタッフが在籍する地域子育て支援拠点事業の実施団体に、事業を委託している。

目標指標

指標名	子育て支援アドバイザーの派遣回数						
単位	回数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	500	500	500	500	500
		実績値	552	537	500		

平成３０年度取組内容

アドバイザーの活動内容を3区分に分類し、依頼元のニーズに沿った派遣を行うとともに、地域子育て支援拠点交流会等を実施し、アドバイザーと地域との交流・連携を深めた。また、引き続きアドバイザー事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託し、事務の効率化と事業内容の充実を図った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	5
評価点		40	44

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	個人ボランティアについて、地域の子育て支援に関わることにより、子育て親子の孤立化や、育児不安・負担軽減ができた。 子育て支援団体について、団体の持つ資源を事業に活用することができた。	運営上の困りごとが発生したときに、一緒に対応にあたることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	個人ボランティアについて、アドバイザーとしての活動を契機に、他の事業への協力も求める。 子育て支援団体について、派遣するアドバイザーに偏りがないよう求める。	

No.	31	事業名	ファミリー・サポート・センター事業
部名	子ども未来部	課名	子ども育成課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		③	子どもの預り
	基本施策	3-02	子育て		多様化する家庭環境に対応するため、保護者が一時的に子どもの養育が困難になった場合、安心して子どもを預けることができる子育て支援サービスの充実を図ります。	
	施策	3-02-01	子育て支援の推進			

相手方の名称	個人ボランティア及び市内で活動する法人	協働事業の実施手法	委託	
実施の時期	随時	事業開始年度	平成16年度	
平成３０年度事業費	予算額 10,782	決算額	9,149	（単位：千円）

事業の概要・目的

「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」が依頼・援助・両方のいずれかの会員として登録し、児童の放課後の預かりや保育所等の送迎等で育児の援助が必要となったときに、会員相互の援助活動を行っている。
なお、事業の運営については、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、市内で活動する法人に委託している。

目標指標

指標名	ファミリー・サポート・センターの相互援助活動件数						
単位	件	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
		実績値	6,695	6,682	7,288		

平成３０年度取組内容

通常の援助活動に加え、平成30年10月から、妊娠中や出産後の家庭にホームヘルパーを派遣し、家事や育児の援助を行った。また、同じく平成30年10月から、多子世帯及びひとり親家庭等が事業を利用した場合に利用料の一部を助成した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	5
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	5
評価点		40	45

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	個人ボランティアについては、相互援助活動を行うことで、地域コミュニティの活性化につながった。市内で活動する法人については、法人の持つ資源を事業に活用することができた。	平成30年10月より「エンゼルサポート」「利用料助成」などの援助が加わり、行政とも相談することが増え、互いの立場も理解し尊重しあえる関係になってきたと思います。他機関との連携もスムーズに行えるようになってきました。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	依頼会員数は増加傾向にあるものの、対応する援助会員数が伸び悩んでいるため、今後も確保に努める必要がある。	ファミリーサポート事業が、今後幼児教育無償化の対象になることなどもふまえ、より深い結びつきや、連絡のタイムロスなどがないよう、密に連絡を取り合っていきたいと思います。

No.	32	事業名	視覚障がい者向け広報等発行事業
部名	福祉部	課名	障がい福祉課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		②	障がい者の社会参加と自立支援
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉		障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。	
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実			

相手方の名称	ボランティア団体	協働事業の実施手法	補助・助成	
実施の時期	通年	事業開始年度	昭和57年度	
平成３０年度事業費	予算額 739	決算額	639	（単位：千円）

事業の概要・目的	視覚障害者の内、希望者にしみんだよりなどの広報の点字版や録音版を製作し配布する。

目標指標	指標名	活動の育成						
	単位	ボランティアの人数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	60	60	60	60	60
			実績値	60	60	60		

平成３０年度取組内容	市は点訳ボランティア及び録音ボランティアに総合福祉センターの一室と紙や録音テープ、機材を提供し、ボランティアは市の広報誌等の点字版、録音版を作成、希望する視覚障害者に配布した。また、障害者の地域生活を支援するボランティアを育成した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	
	評価点		41	0

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市の広報誌等の点字版・録音版を製作し、希望する視覚障害者に対し配布することによって行政からの情報を伝えることができた。	市の広報誌等の点字版・録音版を製作し、希望する視覚障害者に対し配布することによって行政からの情報を伝えることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	ボランティア団体、行政とそれぞれの特性や役割を活かし協働して事業を実施しているが、年々の状況の変化で生じた新たな課題等の共有・解消をより進めていく必要がある。	市民や広報担当課からの意見がほしい。 広報担当課等を含めて協議の場を持ちたい。

No.	33	事業名	奈良市総合福祉センターの運営
部名	福祉部	課名	障がい福祉課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		②	障がい者の社会参加と自立支援
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉		障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。	
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実			

相手方の名称	(社福)奈良市社会福祉協議会	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)	
平成３０年度事業費	予算額 180,900	決算額	180,622	(単位：千円)

事業の概要・目的	障害者のための施策その他社会福祉施策の総合的な推進及び社会福祉活動の育成を図り、もって市民の福祉の増進に資するために設置された総合福祉センターを運営する。

目標指標	指標名	施設の利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000
			実績値	84,859	90,945	89,456		

平成３０年度取組内容	障害者福祉及び市民の福祉活動の振興を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、奈良市社会福祉協議会を指定管理者として総合福祉センターの施設運営を行った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		40	41

総合点	81
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	施設の管理状況や利用者の意見等について、協働相手と適時共有することで、施設のより良い運営管理を行うことができた。	市行政との協働としての事業(行事・イベント)を行うことにより、上記の評価項目において相応の評価をする事が出来た。互いにより良い成果の目標を持つことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	経年劣化に伴う施設修繕や利用者及び地域住民のニーズに対し、迅速に対応できる予算措置が必要である。今後も、効果的・効率的な施設運営を行うために適宜協議し、両者が目的や問題意識をきちんと共有していく必要がある。	指定管理制度の予算執行の現状を考えたときに利用者地域住民のニーズに即対応するスピードに欠ける所が課題である。

No.	34	事業名	奈良市子ども発達センター
部名	子ども未来部	課名	子育て相談課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		①	障がい者福祉サービスの充実
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉		発達の遅れや障がいのある子どもと保護者に対し、相談や療育を行うため、子ども発達センターの事業の充実を図るとともに、医療機関や教育機関などと協力して支援の充実に努めます。	
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実			

相手方の名称	(社会福祉法人)宝山寺福祉事業団	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成23年度(指定管理制度導入年度)	
平成３０年度事業費	予算額 26,509	決算額	23,319	(単位：千円)
事業の概要・目的	奈良市子ども発達センターで児童発達支援を行う。			

目標指標	指標名	当該年度に児童発達支援を利用した幼児の実数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	60	60	60	60	60
			実績値	48	55	48		

平成３０年度取組内容	＜発達支援＞　児童発達支援 ＜地域支援＞　①幼稚園等への訪問による指導 ②事業所支援 ③自主事業(親子教室)(公開療育)
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
	評価点		45	44

総合点	89
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「相談支援」と「発達支援」を一連の流れとして切れ目なく行えたことにより、市民（保護者）の不安の軽減を図った。	適切な連携を図ることにより、児童・保護者のニーズに対応するとともに保護者に適宜必要な助言等を行うことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	強みや不得意を含め互いの専門性に対する理解を深めあうことで新たな協働体制の在り方を考えることができた。	お互いの専門性を理解することにより、協働体制の推進を図ることができた。

No.	35	事業名	認知症サポーター養成講座
部名	福祉部	課名	福祉政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		②	高齢者福祉サービスの充実
	基本施策	3-04	高齢者福祉		認知症の人も介護者も住み慣れた地域で安心して生活できるよう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと連携を図り、地域全体で認知症の人とその家族を支えるネットワークを構築し、総合的かつ継続的な支援を推進します。	
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実			

相手方の名称	地域包括支援センター職員を含むキャラバンメイト	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成20年度	
平成３０年度事業費	予算額 401	決算額	397	（単位：千円）

事業の概要・目的	国の認知症サポーター100万人キャラバン事業に基づき、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターの養成や、その養成のための講師となるキャラバン・メイトの活動を支援する。

目標指標	指標名	認知症サポーターを5ヶ年で約12，000名を養成予定、その後継続して実施					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	14,200	16,500	18,900	23,100	17,000
			実績値	14,037	17,908	20,807		

平成３０年度取組内容	認知症サポーターの更なる養成を行うため、未活動となっているキャラバンメイトが認知症サポーター養成講座の講師役として広く活動できるよう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと協働し取り組みを行った。また、認知症の人やその家族などが集う場であるオレンジカフェ（認知症カフェ）運営者との協働も含め、養成講座受講後もボランティアとして活躍できる場を提供できるよう支援を行った。

今後の方針	拡大	拡大、縮小、廃止の理由	さらなる認知症サポーターを養成するため

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
	評価点		45	45

総合点	90
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	認知症サポーター養成講座開催を通じて、開催先となる各種団体や受講者に認知症の人に優しいまちづくりのための認知症への理解を深める普及・啓発の推進ができた。	行政との協働により、多層な市民・団体・学校などへの普及啓発が推進できた。本人・家族を含み、すべての人が自分ごととしてとらえて認知症を理解し、共に生きる地域を考える講座となっている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	認知症サポーター養成講座開催の要望が多い地域では、講師役となる地域包括支援センターのキャラバンメイトの負担が大きくなってきている。メイトにはなっているが、活動に至っていない人の中で、意欲のあるメイトを発掘し、活動へと結びつける支援が必要。	活動に至っていないキャラバン・メイトに対しての交流会が始まりつつある。講師として活動するための、知識や教材などの学習面の支援が中心となっている。今後さらにフォローアップし、活動を活性化させるため、全体（市全体）で集う場を設け、課題把握することが必要。

No.	36	事業名	奈良市老人福祉センターの運営
部名	福祉部	課名	長寿福祉課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		③	高齢者福祉施設の整備
	基本施策	3-04	高齢者福祉		老人福祉センターにおける高齢者の各種相談、健康の増進・介護予防の推進、生きがいづくりと社会参加を推進します。	
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実			

相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度	
平成３０年度事業費	予算額	129,489	決算額	129,320	（単位：千円）

事業の概要・目的

高齢者の心身の健康保持及び増進を図るとともに、地域における交流の場として便宜を供与することによって生きがいづくりに寄与し、もって高齢者の福祉に資するため、東・西・南・北4箇所の老人福祉センターを運営する。

目標指標

指標名	利用者数の増						
単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	192,000	194,000	196,000	198,000	200,000
		実績値	190,319	182,883	185,302		

平成３０年度取組内容

施設の老朽化に伴う故障等により施設の一部が使用不可能となる事態が多発することが予想されるため、迅速な情報共有を行うことで利用者への影響を最小限にとどめ、利用者のニーズを逃さないようにした。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
評価点		41	44

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	緊密に連携をとることで故障・事故等の情報共有を的確に行うことができた。	高齢者の心身の健康保持及び増進、生きがいづくりに繋がる事業を実施し、長寿健康ポイント対象事業指定や各関係機関や地域住民との連携を図りながら介護予防の視点での利用者のニーズに沿った事業展開も図り利用者増となった。また世代間交流等の交流の場として事業するにあたり理解、協力を得ることが出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	予算を確保し施設整備を進める必要がある。 さらに来館者を増やし、地域と密接に関わっていくことが重要である。	高齢者をはじめ地域の多様化するニーズの対応や地域包括ケアシステムの展開等における地域等の実情に沿った事業を一層充実していくことが必要であるが、関係機関や地域住民の協力はもとより、さらなる情報共有と指導、協議を行う必要がある。また、施設の老朽化に伴う故障により利用者の便宜をできる限り削がないよう情報提供と共有、それに早期対応のため、改修・整備予算の獲得が必要である。

No.	37	事業名	奈良市立都祁診療所・月ヶ瀬診療所の運営
部名	健康医療部	課名	医療政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		①	地域医療体制の充実
	基本施策	3-05	医療		東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。	
	施策	3-05-01	医療の充実			

相手方の名称	公益社団法人　地域医療振興協会	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)	
平成３０年度事業費	予算額　39,800	決算額	39,800	（単位：千円）

事業の概要・目的

医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。
(※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)

目標指標

指標名	診療所利用者数						
単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値					
		実績値	18,188	17,467	16,871		

平成３０年度取組内容

指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行うことができた。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
評価点		42	43

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会（地域医療振興協会）の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有することができた。また、運営に関しては協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、診療所の安定した運営をすることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	施設が経年による劣化をしてきているので、奈良市と協議しながら、適切な補修等を行い患者の利便性と満足度向上に努めたい。

No.	38	事業名	奈良市立柳生診療所・田原診療所の運営
部名	健康医療部	課名	医療政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		①	地域医療体制の充実
	基本施策	3-05	医療		東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。	
	施策	3-05-01	医療の充実			

相手方の名称	公益社団法人　地域医療振興協会	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)	
平成３０年度事業費	予算額 26,245	決算額	26,245	（単位：千円）

事業の概要・目的

医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。
(※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)

目標指標

指標名	診療所利用者数						
単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値					
		実績値	6,549	6,120	6,112		

平成３０年度取組内容

指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行うことができた。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
評価点		42	43

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会（地域医療振興協会）の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有することができた。また、運営に関しては協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、診療所の安定した運営をすることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	施設が経年による劣化をしてきているので、奈良市と協議しながら、適切な補修等を行い患者の利便性と満足度向上に努めたい。

No.	39	事業名	奈良市立興東診療所の運営
部名	健康医療部	課名	医療政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		①	地域医療体制の充実
	基本施策	3-05	医療		東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。	
	施策	3-05-01	医療の充実			

相手方の名称	公益社団法人　地域医療振興協会	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成28年度	
平成３０年度事業費	予算額　10,000	決算額	10,000	（単位：千円）

事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)

目標指標	指標名	診療所利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値					
			実績値	322	427	494		

平成３０年度取組内容	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行うことができた。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
	評価点		42	43

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会（地域医療振興協会）の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有することができた。 また、運営に関しては協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、診療所の安定した運営をすることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	近隣住民や患者の方から頂いた意見を情報共有し/問題の解決に努めたいと考えている。また自主性・独自性を発揮することにより地域医療の貢献につなげていく。

No.	40	事業名	20日ならウォーク
部名	健康医療部	課名	保健所健康増進課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第3章	保健福祉		②	成人保健事業の推進
	基本施策	3-06	保健		運動習慣づくりや食生活改善、禁煙等生活習慣病発症の予防を目的とした健康教育・健康相談など身近な保健サービスを提供し、一人ひとりの健康づくりを支援するほか、市民・民間・行政が一体となって健康づくりに取り組む体制づくりを行います。	
	施策	3-06-01	健康づくり推進			

相手方の名称	奈良市運動習慣づくり推進員協議会	協働の形態	委託	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成18年度	
平成３０年度事業費	予算額 240	決算額	240	（単位：千円）

事業の概要・目的	奈良市運動習慣づくり推進員協議会との協働で、毎月20日に市内をウォーキングする。効果的なウォーキング方法の啓発及び運動習慣の定着を支援し、市民の生活習慣病予防につなげる。

目標指標	指標名	奈良市運動習慣づくり推進員協議会主催実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	11	11	11	11	11
			実績値	10	10	7		

平成３０年度取組内容	ウォーキングイベント（年1回）及び、屋外ウォーキング（年10回）を実施する計画であったが、屋外ウォーキングは雨天のため4回中止となり、計画の通り実施できなかった。ウォーキングイベントでは壮中年期の参加者が45％を占め、若い頃からの運動習慣の大切さを伝えられる機会となった。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
	評価点		45	45

総合点	90
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	奈良市運動習慣づくり推進員の高いチームワークの下、参加者が300人を超える20日ならウォークの運営を円滑に実施することができている。	20日ならウォークの運営面、緊急安全対策対応のみならず、適切な助言、迅速な対応をいただき、都度意見交換し、順調に実施できました。計画実行する上において意識が高く、準備がすべてを支配することを学びました。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	奈良市運動習慣づくり推進員の高齢化・世代交代の中で運動習慣づくり推進員としての認識を深めていただけるよう研修会を協働で企画することにより、奈良市運動習慣づくり推進員としての自覚を促す。	20日ならウォークが定着し順調に推移する現状に満足することなく、参加者減少傾向にあり、市民ニーズに対応すべく相互理解相互協力のもと変えるべき所は変える変革意識をもち、さらなるものを構築して行きたいと思います。

No.	41	事業名	奈良市総合医療検査センターの運営
部名	健康医療部	課名	医療政策課

総合計画上の位置付け				展開方向	
	章	第3章	保健福祉		―
	基本施策	3-06	保健福祉		―
	施策	3-06-01	健康づくりの推進		

相手方の名称	一般社団法人　奈良市医師会	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成28年度(当該指定管理開始年度)	
平成３０年度事業費	予算額　4,021	決算額	4,021	(単位：千円)

事業の概要・目的	市民の日常の健康増進、疾病の予防及び発見、リハビリテーションまでの包括的な保健医療サービスを効果的に提供するため総合医療検査センターを設置し、人間ドッグ、がん検診及び定期健康診断等の検診事業並び食事栄養指導、運動指導及び健康講座等の健康増進事業等を実施する。

目標指標	指標名	センター利用件数						
	単位	件	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	127,500	128,000	140,000	140,000	140,000
			実績値	131,806	135,528	137,239		

平成３０年度取組内容	市民の健康の保持・増進、疾病の早期発見及び予防の推進のため、検診受診者の拡大を図るとともに検査事業においては精度管理に努めることができた。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
	評価点		45	45

総合点	90
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市医師会が総合医療検査センターの管理運営を行うことにより、検診検査を専門とする本施設の特性を活かし、市民の健康の保持増進を図ることができた。	施設の運営にあたり指定管理者として協働することで、市民の健康の保持増進という目的を共有することができ、各事業の取り組みにおいて協力体制が築けた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	経年による施設の維持補修が必要となっており、予算措置に苦慮している。	施設に関して、日々の即効性を必要とする小規模回収は、業務が滞ると困るので行っているが、大規模補修については、施設の老朽化に伴い今後も増えてきますので、予算措置をお願いしたい。

No.	42	事業名	奈良市食育つながるネット事業
部名	観光経済部	課名	農政課

総合計画上の位置付け				展開方向	
	章	第3章	保健福祉		―
	基本施策	3-06	保健福祉		―
	施策	3-06-01	健康づくりの推進		

相手方の名称	ボランティア団体、大学、職能団体、飲食店、企業、生産者団体等	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成27年度	
平成３０年度事業費	予算額 2,107	決算額	1,679	（単位：千円）

事業の概要・目的

食育基本法及び奈良市食育推進計画に基づき、家庭や地域、学校、事業所等の連携・協働を促進することで市民が「食」を通じて健全な心と体を培い、健康で豊かな生活が送れるまちづくりに資することを目的とする。
平成30年度より、「奈良市食育ネット」と改め、規約を改正し、より参加団体が主体的に活動できるよう、行政はサポートする役割を担う。

目標指標

指標名	奈良市食育ネット参加団体数						
単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	35	45	50	55	60
		実績値	43	48	59		

平成３０年度取組内容

5月に食育ネット設立総会・交流会を開催した。設立総会では、規約を全面改正し、代表・副代表、幹事を決め、事業計画を決定した。幹事会を3回開催し、企画について話し合い必要事項について協議した。交流会では、複数名から取組報告を行い参加者と意見交換を行った。9月に「ならの食育未来ワークショップ」を開催し、今後5年間の取組について企画を出しあい、第3次奈良市食育推進計画（平成31年3月策定）に反映させた。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	5	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点		45	44

総合点	89
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「食育つながるネット事業」をいかす形で平成30年5月に「奈良市食育ネット」として組織化したことで主体的な活動が可能となった。第3次奈良市食育推進計画（平成31年3月策定）に組織体制や協働の取組が明記できた。これまでの取組が農林水産省「第2回食育活動表彰」で評価され、今後の活動の励みになった。	様々な立場の関係者が連携・協働するかたちで組織運営が進められている。行政が適切なアドバイスと事務局業務を担い、食育ネットの主体的活動を支援してくれることにより、円滑な運営につながっている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	この体制をいかして食品ロス削減など新しい課題にも市と団体が協働し取り組んでいきたい。また、協働による効果が互いに見えるよう、広報連携していきたい。	奈良市食育推進計画の目標達成に向け、今後も引き続き多様な関係者による連携・協働の取り組みが必要である。今後とも支援をお願いしたい。

No.	44	事業名	自主防災防犯組織活動
部名	総合政策部	課名	危機管理課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		②	防災意識の高揚
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）		自主防災組織の結成率向上、子育て世代の加入促進など組織強化への支援、防災士の育成支援等、組織体制の充実・活性化に努め、防災意識の高揚を図ります。	
	施策	4-01-01	総合的な危機管理			

相手方の名称	市民、自治会（自主防災防犯組織）	協働事業の実施手法	補助・助成	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成18年度	
平成３０年度事業費	予算額 19,185	決算額	18,780	（単位：千円）

事業の概要・目的

各地区の防災防犯力の向上を図り、安全安心な街づくりを推進するため、自主防災防犯組織が行う防災訓練、防犯決起集会等の各種防災防犯活動を支援する。この際、各地区の自主防災防犯組織の均一的な活性化に留意しつつ、自主防災防犯協議会と合同で防災訓練等を実施するとともに、防災士育成、資機材購入等の防災防犯活動に対して、活動交付金を交付し、自助・共助・公助連携の向上を図る。

目標指標

指標名	各地区自治連合会等を基本とした自主防災防犯組織の結成率						
単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	98	100	100	100	100
		実績値	100	100	100		

平成３０年度取組内容

自主防災防犯組織に自主防災防犯組織活動交付金を交付し、防災訓練、研修会の支援を行い、また、必要に応じて、防災訓練や防災防犯講演会に職員を派遣すした。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	5	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点		37	40

総合点	77
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	安全安心まちづくりには、行政主導での事業のみならず、地域が自主的に防災・防犯活動に取り組むことが重要であることの相互理解が深まった。 また、合同防災訓練の実施により、それぞれが行うべきことの認識を深めるとともに、協働して取り組むことにより、災害に強いまちづくりを促進した。	行政の事務局機能が効果を発揮して協議会メンバーの情報交換に役立った。協議会メンバーから行政への連携を図ることが多くなった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	会長や役員の交代により、今まで相互に理解・認識し実施できていた事がうまく引き継がれず、協働で取り組んでいる事項等について、一から説明しなければならないという事象も発生したため、組織内の人材育成や会員増強が今後の課題である。	行政が単年度主義であるため、継続性にかける。また、年度途中での取り組みに対して柔軟性がなく、次年度扱いになる事があるため、迅速性が劣る。

No.	45	事業名	独り暮らし高齢者世帯防火訪問
部名	消防局	課名	予防課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		②	防火、防災における市民等との協働の推進
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）		女性防災クラブとの協働による一般家庭防火訪問（住宅用火災警報器の普及促進と出火防止対策）の実施等防火対策の推進と、自力避難困難者収容施設への査察の強化を図ります。	
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実			

相手方の名称	奈良市女性防災クラブ	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	昭和46年度	
平成３０年度事業費	予算額 10	決算額	10	（単位：千円）

事業の概要・目的

火災時に死傷者の発生する割合の高い高齢者世帯に対する防火啓発により住宅火災の防止、被害の減少を図ることを目的とする。
そのために、70歳以上の独り暮らし高齢者世帯を対象に防火訪問を実施する。

目標指標

指標名	女性防災クラブ員一人当たり訪問回数の増						
単位	一人当たり訪問回数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	1.3	1.7	1.8	1.9	2.0
		実績値	1.6	1.8	2.3		

平成３０年度取組内容

各女性防災クラブのクラブ員が、それぞれの地域の独り暮らし高齢者世帯の防火訪問を実施した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	3	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
評価点		36	40

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域に密着した女性防災クラブ員の防火訪問により、独り暮らし高齢者世帯への火災予防啓発を実践することができた。また、クラブ員個々が防火防災指導を実施することで、クラブ員としての自覚、意識の向上が図れている。	防火訪問実施世帯数が前年度比22.5%増の3,000世帯以上となり、地域に密着した火災予防啓発を実践することが出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	引続き、全クラブでの円滑な防火訪問実施を目標とする。	引続き、クラブ員への防火に関するデータや資料等の情報提供及び円滑な防火訪問を実施するため関係機関との協力体制の構築を希望。

No.	46	事業名	応急手当普及啓発活動事業
部名	消防局	課名	救急課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		②	防火、防災における市民等との協働の推進
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全(防災・消防・防犯・交通安全)		市民を対象とした応急手当普及啓発活動を推進します。	
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実			

相手方の名称	市内在住・在勤者	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成6年度	
平成３０年度事業費	予算額 648	決算額	606	（単位：千円）

事業の概要・目的	応急手当講習会を受講してもらうことにより、応急手当の必要性を認識していただき、病院前救護の充実を図る。

目標指標	指標名	市民の4人に1人が応急手当講習修了者となること						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	3,360	3,360	3,593	3,593	3,593
			実績値	2,521	2,103	2,161		

平成３０年度取組内容	各種事業所・各種団体及び自治会等に対して応急手当講習会の受講を推進し、また、応急手当講習会の広報を継続して行い、各種イベントを通じて応急手当の展示と講習会の広報を実施した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
	評価点		37	36

総合点	73
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	応急手当の必要性がについて理解が得られた事により、救急現場における市民による応急手当実施率が増加している。	救命・悪化の防止・苦痛の軽減という応急手当の必要性および重要性が理解できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	市民の応急手当で傷病者の救命率は高まるが、時間経過とともに技能低下が予想され、また一定期間ごとに手技等の変更があるため、定期的な受講が必要である。	時間経過とともに、知識・技能が低下することは認識できるも一定期間ごとに再講習を受けることが難しい。

No.	47	事業名	放置自転車対策の推進
部名	市民生活部	課名	交通政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		③	放置自転車対策
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）		駅周辺の放置自転車の撤去を強化することにより、道路交通の安全と円滑化を図ります。	
	施策	4-01-03	交通安全の確保			

相手方の名称	地元商店街	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成23年度	
平成３０年度事業費	予算額 0	決算額	0	（単位：千円）
事業の概要・目的	商店街の方々の協力を得て、自転車等放置禁止区域内にある商店街に放置されている自転車等の一掃をめざす。			

目標指標	指標名	市内放置禁止区域内の放置自転車等の減						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	2,080	2,060	2,040	2,020	2,000
			実績値	1,876	1,653	1,173		

平成３０年度取組内容	(社)奈良市商店街振興会に放置自転車等の情報を提供し、商店街と協力して、放置自転車等の移動を行った。自転車等放置禁止区域の周知啓発を行った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	
	評価点		36	0

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	情報共有、啓発、移動等により放置自転車は減少傾向にある。	特になし
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	放置自転車の更なる減少を目指し、情報共有を継続していく。	特になし

No.	48	事業名	奈良市自転車駐車場の運営
部名	市民生活部	課名	交通政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		③	放置自転車対策
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）		自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図るため、民間活力を利用し、駅周辺に自転車駐車場を充実させます。	
	施策	4-01-03	交通安全の確保			

相手方の名称	事業者（ミディ総合管理株式会社）	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）	
平成３０年度事業費	予算額 68,493	決算額	68,506	（単位：千円）
事業の概要・目的	市内の駅周辺における自転車等の駐車秩序を確立することにより、街の美観を維持するとともに、自転車利用者の駐車の利便を図る。			

目標指標	指標名	自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図る						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360
			実績値	3,360	3,360	3,360		

平成３０年度取組内容	指定管理者と連絡調整を行いながら、施設のより良い運営に努めた。		
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
	評価点		43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	利用者の意見や施設管理状況を適時共有し、施設のより良い運営管理を行うことができた。	情報を共有することによって、迅速かつ丁寧なサービスを提供することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	放置自転車の更なる減少を目指し、情報共有を継続していく。	情報共有を密にし、より質の高い運営管理を行う。

No.	49	事業名	地域防犯活動推進事業
部名	総合政策部	課名	危機管理課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		③	地域の防犯力の強化
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）		防犯意識の普及及び防犯施策を推進することにより、犯罪や事故等のない明るく住みよい地域社会を推進する。	
	施策	4-01-04	防犯力の充実			

相手方の名称	市民・自治会・自主防犯組織・事業者	協働の形態	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成21年度	
平成３０年度事業費	予算額 994	決算額	694	（単位：千円）

事業の概要・目的

奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施する。

目標指標

指標名	防犯教室実施回数						
単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	8	11	14	17	20
		実績値	8	12	23		

平成３０年度取組内容

奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点		35	42

総合点	77
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	・互いの予定を調整することにより、防犯教室の回数を増やすことができた。また防犯教室の内容に関して、お互いの分野の情報を発信することで、効果的な啓発活動を実施することができた。	・互いに連携が取れた関係を構築できたことにより、防犯教室以外の事業にあっても効果的に進めることが出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	・お互いの意見を意見をフィードバックする場を設けることが出来なかった。情報共の体制強化に努めたい。	・今後もあらゆる施策を進めていく中で更に連携した打ち合わせや準備を密にしてゆきたい。

No.	50	事業名	奈良市地球温暖化対策地域協議会
部名	環境部	課名	環境政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		②	地球温暖化対策の推進
	基本施策	4-02	環境保全		奈良市地球温暖化対策地域協議会等を通じ、市民、事業者、行政等あらゆる主体が協働し、環境教育、エコバッグの普及等3Rの推進や公共交通機関の利用促進及び省エネを実践できる仕組みづくりなど温室効果ガスの排出量を削減し、地球温暖化対策の推進に取り組みます。	
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築			

相手方の名称	市民・NPO・事業者など	協働事業の実施手法	実行委員会・協議会	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成21年度	
平成３０年度事業費	予算額 628	決算額	628	（単位：千円）
事業の概要・目的	市民（個人・団体）、NPO、事業者、学識経験者、行政などが対等な立場で和をもって協議を行い、パートナーシップにより地球温暖化対策等の活動を推進し、環境（エコロジー）も経済（エコノミー）も持続可能な社会をめざす。			

目標指標	指標名	環境行事実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	20	23	25	27	30
			実績値	24	24	18		

平成３０年度取組内容	温室効果ガス排出削減に向け、市民・市民団体・事業者等と協働し、省エネ・創エネ（市民の省エネへの取組を支援する）、3R（レジ袋有料化の取組）、公共交通、環境教育等の様々な分野で活動を展開した。 また、設立から10年の節目を迎え、会の活性化を見据えた体制の見直しも行った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	3	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	2	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	2	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	2	4
	評価点		29	40

総合点	69
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	種々の立場の人間が、共通の目的を持って活動することにより、会員同士のネットワークの構築に寄与し、個々の取り組みにおいても協働ができている。	行政が関わることでしっかりした事務的支援や信頼を得られ、啓発誌の取材や配布、環境イベントでの展示説明、市内の教育機関への出前講座など、市民レベル単独ではできない充実した活動によって、地球温暖化対策への市民の理解浸透が実施できている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	各人が、関心のある分野に対してのみ活動を進めていく傾向があり、他の分野の活動で手助けが必要な場合に、協力しているメンバーが固定化されつつある。また、運営に主に関わるメンバーが固定化されている。総会にて新たな役員を選出し、体制の見直しについて検討し、協議会の活性化を求めたい。	会員の多くは他の活動グループにも属している者が多く、当協議会の活動に時間が取りにくいことは課題であり、会員を増やす工夫が必要である。体制を見直し、固定されたメンバーだけでなく、新たな会員にも参加してもらいやすい環境づくりを求めたい。

No.	51	事業名	ECOキッズ！ならの子ども
部名	環境部	課名	環境政策課・学校教育課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		①	環境保全行動の推進
	基本施策	4-02	環境保全		子どもから大人までそれぞれの発達段階に応じた環境教育を推進することにより、一人ひとりが自発的に気付き、学び、行動する心を育成します。	
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築			

相手方の名称	市民・市民団体等	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成25年度	
平成３０年度事業費	予算額 1,505	決算額	1,051	（単位：千円）

事業の概要・目的	次世代を担う子ども達に環境問題や省エネ・節電などライフスタイルに対する気づきを与え、環境保全を推進する人材を育成するため、市立全小学校3年生を対象に、地球温暖化防止や省エネなどの環境に関する出前授業を行う。

目標指標	指標名	夏・冬休みに家庭で取り組むエコチャレンジを実施した割合					
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	100	100	100	100	100
			実績値	92	89	80		

平成３０年度取組内容	市立小学校3年生全クラスを対象として、地球温暖化防止や省エネなどの環境に関する出前授業を実施した。カリキュラムについては、これまでに実施した市立小学校からの意見を参考に、推進部会を開催し改善を行った。出前授業実施後には、定着を図るための振り返りとして、エコライフに関する6つの項目について家庭で取り組むエコチャレンジを夏・冬休みに実施した。また、昨年度より新たに導入した夏休み後のフォローアップ講座（2回講座）の実施数の拡大や、新たな講座の導入など事業の充実を図った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	2
	評価点		42	41

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	教育現場に教員以外の講師を派遣することで、子ども達と地域の人々とのコミュニケーションが生まれるとともに、教員への波及効果が期待され、環境保全に対する興味や意識が向上することが期待される。	自分たちの身近な問題でもあり生活をふり返りながら考えることができた。 事前の打ち合わせにより、安心して講座を受けられた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	毎年変わっていく小学校の担任の先生方への事業概要、目的をきちんと説明し理解を求め、協働による事業推進の円滑化を図る必要がある。	新たに導入したフォローアップ講座（２回講座）を活用する小学校が少なく、授業時間の確保とマッチングする方法を検討したい。

No.	52	事業名	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」
部名	市民活動部	課名	協働推進課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		①	環境美化活動の推進
	基本施策	4-03	生活・環境衛生		アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。	
	施策	4-03-01	環境美化の推進			

相手方の名称	自治会・ボランティア団体・事業者等	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成20年度	
平成３０年度事業費	予算額 3,125	決算額	2,845	（単位：千円）

事業の概要・目的	市民の方々による身近な道路、河川等の公共施設の美化活動を通して地域コミュニティの再生を図る。

目標指標	指標名	活動団体の増						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	64	66	83	85	87
			実績値	60	81	92		

平成３０年度取組内容	ホームページやしみんだより、情報誌「りろぱ」を通して参加団体を募集し、市の支援として、報奨金10,000円、ごみの回収、90Lのごみ袋の提供、ボランティア活動保険への加入を行った。また、報奨金を希望しない団体は、ごみ袋45L及び90Lの支給、ごみの回収、ボランティア活動保険への加入を行った。また、活動団体の声などを基に、手続き方法を改善し、提出書類の削減や簡略化が実現した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	3
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	3
自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3
自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	2
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点		38	31

総合点	69
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	アダプトプログラム推進事業の活動団体が増えることにより、市が活動支援を行い、地域の有志の団体が美化活動を行うことで、「自分たちのまちを自分たちの手できれいにしよう」という意識が広がり、地域コミュニティの再生につながった。	・地域がきれいになった。 ・地域の親睦が深まった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	それぞれの団体によって清掃方法が異なるため、すべての団体ニーズに沿うことができない。	・メンバーの高齢化、担い手不足。 ・美化活動をする人を対象にした人材育成講座を行う。 ・情報誌「りろぱ」を住民や自治会にも配布してほしい。

No.	53	事業名	佐保川清掃
部名	環境部	課名	まち美化推進課

総合計画上の位置付け			展開方向		
章	第4章	生活環境		①	環境美化活動の推進
基本施策	4－03	生活・環境衛生		アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。	
施策	4－03－01	環境美化の推進			

相手方の名称	佐保川清掃対策委員会	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	春	事業開始年度	昭和34年	
平成３０年度事業費	予算額 0	決算額	0	（単位：千円）
事業の概要・目的	地域住民の方々のボランティア活動により佐保川の美化活動を行う。			

目標指標	指標名	美化活動への参加人数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,500	1,500	1,500	1,550	1,550
			実績値	1,200	1,200	1,200		

平成３０年度取組内容	地域住民のボランティア活動による佐保川の美化活動を推進するため、前年に引き続きごみの収集・運搬処理の支援を行った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	
	評価点		40	0

総合点	80
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	美化活動と共に、水辺に棲む生物の生活環境を保持し、「自分たちの手で自分たちのまちの美化を促進する」という意識を保持することが出来た。	
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	自主的な参加が減っている。	

No.	54	事業名	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業
部名	健康医療部	課名	生活衛生課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		②	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業
	基本施策	4-03	生活・環境		狂犬病に対する認識や動物愛護の意識の高揚に努めるとともに動物の正しい飼い方を啓発し、人と動物が良きパートナーとして共に暮らせるまちづくりを推進する	
	施策	4-03-02	生活・環境衛生の向上と増進			

相手方の名称	自治会	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成15年度	
平成３０年度事業費	予算額 59	決算額	17	（単位：千円）
事業の概要・目的	自治会を通じて動物の適切な飼い方に関するポスターを配布し掲示してもらうとともに、地域住民との意見交換を行い、良い意見を反映させていくことで、飼い主のマナー啓発に努める			

目標指標	指標名	ポスター配布枚数						
	単位	枚	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	800	800	800	800	800
			実績値	451	575	491		

平成３０年度取組内容	動物の飼い方に関する苦情・相談を集約・整理しながら、市の各自治会と連携し、動物の適切な飼い方についてのポスターを配布した。そのうえで、動物に関する迷惑行為防止の取り組みについて意見交換を行い、有効な取り組みについては市全体に発信するなど、人と動物がともに暮らせるまちづくりを推進する取り組みを自治会と協議で構築した。 また、災害発生時の「ペット同行避難」について、市民の理解を深め、平常時から備えておくことの重要性を啓発するため、ポスターを作成し配布した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	3
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
	評価点		41	35

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市と自治会がともに動物に関わる迷惑行為防止等の取組みを行うことにより、動物の適正飼養に対する意識を高めるとともに、飼い主に対しマナー啓発を行うことで、人と動物がともに暮らせるまちづくりの推進を図ることができた。	継続してポスターを掲示することにより動物に関する迷惑行為に対してある程度の抑止効果があった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	動物に対する意識の隔たりが大きく、合意の形成が困難であると感じる。根気よく啓発を継続することを望む。	飼い主のマナー啓発には限りがあるため迷惑行為を根絶することは難しい。

No.	55	事業名	環境フェスティバル、ならクリーンフェスタ
部名	環境部	課名	廃棄物対策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		①	ごみ減量・リサイクルの推進
	基本施策	4-04	廃棄物処理		ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協議した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。	
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理			

相手方の名称	奈良市ごみ懇談会	協働事業の実施手法	共催	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成6年度	
平成３０年度事業費	予算額 164	決算額	133	（単位：千円）

事業の概要・目的	全国的に制定されている環境月間や3R(スリーアール)推進月間などの契機に、本市の取組として廃棄物に関する問題意識の高揚とごみ減量・リサイクル促進の必要性を訴えるため、啓発活動の一環として開催する。

目標指標	指標名	イベントへの参加者数の増加						
	単位	人／回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	6,000人/2回	6,000人/2回	6,000人/2回	6,000人/2回	6,000人/2回
			実績値	3,000人/1回	3,000人/1回	6,000人/2回		

平成３０年度取組内容	しみんだより及びホームページ等を用いてフリーマーケット出店者を公募し応募者から抽選を行い決定した。市民団体には準備段階から関わっていただいた。イベント当日は当選した市民へフリーマーケットのスペースを提供し、市民団体には各々の特性を生かした3Rへの啓発を展開していただいた。また、奈良市手をつなぐ親の会に、会場にてリユース（再使用）家具並びにリサイクル自転車の販売を行っていただいた。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	継続するが、マンネリ化した催事内容の見直しを含め検討する。

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	3	
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		3
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
評価点		38	38

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	交換会のイベントは盛況であり、来場者に、ごみがまだ使えるものであるという認識を変化させる機会が提供されている。今後の開催時も、さらなる協力が得られる可能性が高い。	靴・鞄・縫いぐるみの交換市は浸透してきているとは思うが、秋のフェスタでは市で回収した中から抜くということができなかったので数量的に減少した。春と秋の2回で合計約230ｋｇ、延べ人数150名の参加があった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	長年継続して実施している事業であり、フリマ応募者も減少傾向にあることから、マンネリ化を防ぐための催事内容や次期の見直し（協働相手の発掘と関係性の強化）を検討していく必要がある。	担当の職員さんが1年で異動や変動するので、またごみ懇談会の会員も関われる人数が減少しているので、どちらも自分たちのことで手いっぱいで協働の作業がなかなかできない。話し合いの時間も取れないので十分な準備ができない。

No.	56	事業名	ごみ減量キャラバン
部名	環境部	課名	廃棄物対策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		①	ごみ減量・リサイクルの推進
	基本施策	4-04	廃棄物処理		ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協議した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。	
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理			

相手方の名称	ごみ懇談会等	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成24年度	
平成３０年度事業費	予算額 132	決算額	98	（単位：千円）

事業の概要・目的	啓発活動により、より多くの市民に、廃棄物の課題を認識していただき、ごみの減量及び3Rの促進に取り組んでいただく。

目標指標	指標名	キャラバンへの参加者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	600	600	600	600	600
			実績値	396	570	292		

平成３０年度取組内容	奈良市内の公民館や自治会を回り、ごみの分別・減量や3Rの実践活動の広報する講演会を開催した。 また、PTAなどにも開催についての周知を行った。

今後の方針	拡大	拡大、縮小、廃止の理由	公民館や自治会に加え、小学校やこども園向けにも実施していく。

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		40	43

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	ごみ懇談会のメンバーが講師をするため、市民の立場（同じ目線で）でごみ減量手法やごみ分別について話していただけることから、参加する市民の方にも、よりわかりやすく興味を持てる内容となっている。そのため参加者の満足度が高い。	市からの説明をしっかりすることで毎年同じ公民館、同じ参加者であっても毎回市から伝えたいことを言い続けて浸透を計ることでごみのことへの理解を深めることができた。市民に「何故そうするのか」という説明をよりわかりやすく伝えることができた
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	事業開始から７年が経過し、公民館講座に組み入れてもらい継続的に開催しているところでは、キャラバンの活動を認識してくれているが、まだまだ浸透していける余地がある。今後、小学生を対象に実施するなど、裾野を広げていく方法の検討が必要と考えている。	市の担当職員さんが短期間で異動したり変動があるのでキャラバンの継続を維持するためには最初から関わっているごみ懇談会の役目も重要と感じる。お互いの役目を協働で分担することによってより良いキャラバンへと継続することができると思う。

No.	57	事業名	陶磁器製食器類リユース・リサイクル事業
部名	環境部	課名	環境政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第4章	生活環境		①	ごみ減量・リサイクルの促進
	基本施策	4-04	廃棄物処理		ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体等と連携・協働した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。	
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理			

相手方の名称	関西ワンディッシュエイド協会	協働事業の実施手法	委託	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成27年度	
平成３０年度事業費	予算額 3,732	決算額	3,121	（単位：千円）
事業の概要・目的	定期回収拠点（コープおしくま、コープ七条、はぐくみセンター）や奈良市の主催イベント等にて、家庭で不用になった陶磁器製食器類を持ち込んでいただき回収するとともに、持ち帰りたい食器があれば配布する「もったいない陶器市」を開催する。本事業を通じて、ごみの2R（発生抑制、再使用）を促進し、ごみに対する意識の高揚を図る。			

目標指標	指標名	陶磁器製食器のリユース率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	58	59	62	63	64
			実績値	61	61	61		

平成３０年度取組内容	昨年に引き続き、コープおしくま、コープ七条、はぐくみセンターの3箇所で定期開催を行い、市役所では休日開催を行った。夏には、奈良ロイヤルホテルで開催したイベントに出店し、幅広く市民に参加して頂いた。また、市主催の環境フェスティバル、クリーンフェスタでも事業を開催した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
	自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
	評価点		40	45

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	定期開催のほかに事業展開を運営側と協議し続けた結果、新規拠点にて事業を開催することができた。幅広く市民にごみの2Rを啓発することができた。	奈良市内3カ所、市役所での休日開催を行ったことで今年度は3000件を超える持ち込みがあった。安定した場所での開催が市民に浸透してきたと感じる。このことから陶磁器食器の2Rが促進されゴミ減量に貢献出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	前年度に比べ1回あたりの持込み件数と回収量を増加したことで、人員の確保やその準備による負担が大きかったように見受けられる。	まだ周知されていない拠点（コープ七条）の市民へのアピールを検討して頂きたい事と、本年度は開催出来なかったリユース市の開催を希望します。

No.	58	事業名	なら・まちかど景観発掘隊
部名	都市整備部	課名	景観課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	5章	都市基盤		④	協働による景観まちづくり
	基本施策	5－02	景観		地域の貴重な景観資源を発掘し、それを市民一人ひとりが活用できる景観施策を推進します。	
	施策	5－02－01	奈良らしい景観の形成			

相手方の名称	自治会・ボランティア団体	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成22年度	
平成３０年度事業費	予算額 239	決算額	14	（単位：千円）

事業の概要・目的

自治会やボランティア団体と市との協働により、なら・まちかど景観発掘隊と題し一般の方々を募り、街歩き計画を立て、街歩きを通じて私たちの住む街角にある、ちょっとした素晴らしい景観スポットを発掘する。これを景観資源として蓄積し、観光や街の活性化につなげていく。

目標指標

指標名	活動団体数の増						
単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	2	2	3	3	4
		実績値	1	1	1		

平成３０年度取組内容

地域団体の方々と市との協働により、なら・まちかど景観発掘隊と題し一般の方々を募集し、街歩きを案内した。その中で景観スポットを発掘するワークショップを行い、地域の景観資源として蓄積し、観光や街の活性化につなげていくことができた。また、その成果を周知することにより、活動団体の増加を図った。

今後の方針	縮小	拡大、縮小、廃止の理由	人員不足により継続は困難

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	5
評価点		40	38

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	身近な場所での景観資源の新たな発見により、奈良らしい景観を普段から意識していただくきっかけづくりが出来た。	奈良の素晴らしいと思える景観について、意識を高めることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働で活動しているボランティア団体は、高齢の方が多数を占めている。若手の参加者を増やすことが求められる。	今後も市と協力して景観資源の発掘などの活動を継続したいと思う。

No.	59	事業名	違反広告物を出さない街づくり推進団体
部名	都市整備部	課名	景観課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	5章	都市基盤		④	協働による景観まちづくり
	基本施策	5－02	景観		景観まちづくり市民組織の結成、育成を支援するとともに、各組織のネットワーク化を図ります。	
	施策	5－02－01	奈良らしい景観の形成			

相手方の名称	自治会･2名以上のボランティア団体	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成16年度	
平成３０年度事業費	予算額 343	決算額	78	（単位：千円）

事業の概要・目的	古都奈良にふさわしい景観となるよう、道路などに掲出された違法な簡易広告物を市民の方々に除却していただき、その活動を通じて地域の景観を守る意識を高めていただく。

目標指標	指標名	活動団体数の増加						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	38	46	54	62	70
			実績値	43	47	49		

平成３０年度取組内容	しみんだよりや市ホームページによる広報に加え、関係団体にも積極的に働きかけ、活動団体数の増加を図った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
	評価点		43	44

総合点	87
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	違反広告物を出さない街づくり推進団体との協働によって、地域の景観を守る意識が高められた。	活動当初と比べて簡易広告物の除去件数が減少していることは、活動の成果である。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	より多くの市民の方々に景観の意識を高めてもらうために、活動団体の増加を目指す。	除去件数が減少しているので、今後は活動の意義をPRすることが課題である。

No.	60	事業名	グリーンサポート制度
部名	市民活動部	課名	協働推進課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第5章	都市基盤		①	公園・緑地の管理や運営の多様化
	基本施策	5-06	公園・緑地		公園ボランティア制度やグリーンサポート制度などを活用し、市民等との協働による公園・緑地の管理運営を推進します。	
	施策	5-06-01	公園・緑地の整備			

相手方の名称	自治会等地域の団体	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成20年度	
平成３０年度事業費	予算額 13,620	決算額	13,551	（単位：千円）

事業の概要・目的	市民が公園を快適かつ安全に利用できるようにするとともに、市民の自主的な活動の推進を図る。

目標指標	指標名	グリーンサポート制度による公園管理率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	32	34	36	38	40
			実績値	28	31	33		

平成３０年度取組内容	情報紙「りろぱ」の発行やしみんだより、ホームページの広報活動等により市民への周知し、団体数の増加を図った。また、活動団体の声などを基に、手続き方法を改善し、、提出書類の削減や簡略化が実現した。引き続き、公園維持管理活動の推進・拡大を図っていく。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	2
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		39	34

総合点	73
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	グリーンサポート制度に登録する公園は年間を通じて美化が保たれた。 自分たちの地域の公園は自分たちの手で美しくしようという機運が芽生え、登録団体の増加に繋がっている。	・地域がきれいになった。 ・地域の親睦が深まった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	それぞれの団体によって、公園の管理方法が違うため、すべての団体のニーズに沿えない。 参加者の高齢化に伴い、維持管理活動に支障が出始めている。担い手の育成の仕組みを検討する必要がある。	・清掃ボランティアに関する情報の収集、提供を充実する ・活動への参加を促すイベントを行う ・自治会への活動の周知

No.	61	事業名	なら燈花会開催事業
部名	観光経済部	課名	観光戦略課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6-01	観光		_	
	施策	6-01-01	観光力の強化			

相手方の名称	特定非営利活動法人　なら燈花会の会		協働事業の実施手法	補助・助成	
実施の時期	8月5日～14日		事業開始年度	平成11年度	
平成３０年度事業費	予算額	10,000	決算額	10,000	（単位：千円）
事業の概要・目的	観光閑散期の奈良の夏に多くの観光客を呼び込むため、奈良公園内の7カ所の会場で毎夜約300人を超えるボランティアの人力によって20,000個のろうそくを灯し、歴史的建造物等のライトアップを含めた夏の祭典として、なら燈花会を開催する。				

目標指標	指標名	期間中の来訪者						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
			実績値	911,000	975,000	951,000		

平成３０年度取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ、公共施設へのチラシ・ポスター設置等を通じ、ボランティア募集を積極的に展開。また、「なら燈花会支援会議」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努めた。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
	評価点		43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	経費的、内容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業だが、「特定非営利活動法人　なら燈花会の会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって今や夏の奈良の風物詩として認知されている。また、ボランティアをはじめとする多くのスタッフが奈良を訪れることにつながり、奈良を愛する心を育むことができた。	経費的、内容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業だが、「特定非営利活動法人　なら燈花会の会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって今や夏の奈良の風物詩として認知されるに至った。また、この事業が継続されることにより、ボランティアをはじめとする多くのスタッフ一人一人が奈良を訪れることにつながり、奈良を愛する心を育むことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	10日間の開催のため期間を通じて一定数のボランティアを確保することが困難になりつつあり、また役員の後継者不足も見受けられる。	多くのボランティアにより継続できているが、役員の後継者不足が見受けられる。

No.	62	事業名	ガイド付きツアー
部名	観光経済部	課名	観光戦略課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		②	観光客受入体制の充実
	基本施策	6-01	観光		着地型観光（目的地である着地側で企画する観光）の内容の充実と、広報の強化に努めます。	
	施策	6－01－01	観光力の強化			

相手方の名称	なら・観光ボランティアの会	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	7月・8月・12月・1月を除く通年	事業開始年度	平成22年度	
平成３０年度事業費	予算額 200	決算額	200	（単位：千円）
事業の概要・目的	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様に歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらう。			

目標指標	指標名	ガイドツアー参加者（集客）の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
			実績値	638	601	897		

平成３０年度取組内容	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様に歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらった。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
	評価点		41	43

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	観光客からの評価は高く、満足していただいている。また、協働相手と密に連絡をとることによって、利用者からの感想が聞ける。	行政との情報交換を進めながら、より魅力的なコース設定やテーマ設定を行った結果、お客様から高い評価を得ることが出来、また参加したいという声を沢山頂いている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	利用者からの評価は高く、コース内容に変化を持たせることにより、30年度の参加人数が増加したため、さらなる魅力的なコースの造成を期待する。	全てのガイド付きツアーでコース変更を行ったが、特に秋のツアーでは新規ルート設定に加えツアーのタイトルも変えることで、お客様に新規性のアピールが出来、参加人数の大幅増に繋がった。今後も更なる情報交換を進めより魅力的なコースやテーマ設定を行っていきたい。

No.	63	事業名	しあわせ回廊～なら瑠璃絵～開催事業
部名	観光経済部	課名	観光戦略課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6-01	観光		オフシーズンである冬の時期に「珠光茶会」や「しあわせ回廊なら瑠璃絵」を開催し、1年を通じて観光客が訪れる観光資源を育てます。	
	施策	6-01-01	観光力の強化			

相手方の名称	なら瑠璃絵実行委員会		協働事業の実施手法	補助・助成	
実施の時期	2月初旬～中旬		事業開始年度	平成21年度	
平成３０年度事業費	予算額	8,000	決算額	8,000	（単位：千円）
事業の概要・目的	春日大社本殿、東大寺大仏殿、興福寺東金堂の夜間拝観の実施や、奈良国立博物館の夜間開館、三社寺をつなぐ奈良公園内におけるLEDライト等によるあかりの演出などを行う。				

目標指標								
	指標名	期間中の来訪者						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
			実績値	386,000	369,000	412,000		

平成３０年度取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ等を通じ、PRを積極的に展開する。また、「なら瑠璃絵推進委員会」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努めた。		
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	3	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		3
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		39	39

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「なら瑠璃絵実行委員会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって経費的、内容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業の実施が可能となった。	「なら瑠璃絵実行委員会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって経費的、内容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業の実施が可能となった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	冬季イベントということもあり、当日のボランティアを確保することが困難。	実行委員会と行政機関との間を取り持っていただきました。人海戦術部分においては、ご協力とご尽力をいただきました。奈良という土地が持つ心映えに寄り添いながら、三社寺を結ぶという軸を大切に、新しい感覚を取り入れ、お互いに協力し、よりよい事業にしていきたい。

No.	64	事業名	バサラ祭り開催事業
部名	観光経済部	課名	観光戦略課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6－01	観光		-	
	施策	6－01－01	観光力の強化			

相手方の名称	特定非営利活動法人 バサラ衆		協働事業の実施手法	補助・助成	
実施の時期	8月末		事業開始年度	平成10年度	
平成３０年度事業費	予算額	1,500	決算額	1,500	（単位：千円）

事業の概要・目的	「バサラ祭り」は市民参加型の祭りで、それぞれ工夫を凝らしたコスチュームを着たダンスチームが各会場を踊りながらパレードを行うものであり、奈良の夏の顔の一つとして実施する。

目標指標	指標名	期間中の来訪者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
			実績値	27,000	30,000	32,700		

平成３０年度取組内容	来訪者を増やすため、事業実施について協議し、実行委員会と共に、ポスター・チラシ、観光ウインドー等で広報活動を行った。また円滑な運営のため、開催期間中は参加車両の駐車場等で協力した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点		40	41

総合点	81
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「バサラ祭り実行委員会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって経費的、内容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業実施が可能となった。また、この事業に参加することにより、ボランティアをはじめとする多くのスタッフ、出演者一人一人が奈良を訪れる観光客に対する「おもてなしの心」を醸成するとともに、地域に関わる誇りと愛着を持つことにつながり、奈良を愛する心を育むことができ、地域の活性化にも貢献できた。	道路や駅前広場といった公共空間を舞台にすることが多いため、市の支援を得ることで関係諸団体の理解も得やすくなっている。また告知等についても広報誌や記者クラブを通じてのアピール、観光ウィンドウなどの展示多くの協力をいただき、広く市民にアピールできた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域での認知度が高まってきたので、今後のイベントの拡大・発展が課題である。	行政の持つ資源を活用し祭りを盛り上げることで、奈良市中心部の活性化や奈良の魅力の発信に繋げていきたいと考えている

No.	65	事業名	月ヶ瀬梅林周遊道路整備
部名	建設部	課名	道路建設課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6-01	観光		梅林周遊道路の整備を行い、観光ネットワークのひとつとしての環境整備を図ります。	
	施策	6-01-01	観光力の強化			

相手方の名称	梅林周遊道路改修委員会	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成17年度	
平成３０年度事業費	予算額 50,000	決算額	54,954	（単位：千円）

事業の概要・目的

地元自治会選出の代表をメンバーとして設置された「梅林周遊道路改修委員会」と調整及び協議を図りながら、名勝「月ヶ瀬梅林」を周遊する道路を整備し、地域住民の利便性を向上させるとともに、観光客の安全と地域観光の活性化を図る。

目標指標

指標名	道路の整備延長 L＝1280m						
単位	m	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	100	100	100	100	106
		実績値	88	0	220		

平成３０年度取組内容

事業実施に伴う用地取得について、早期に各権利者と調整しながら取得に向けた交渉を進めることができた。H30は、L=220m区間の整備を完了した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	3
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
評価点		35	36

総合点	71
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	委員会が地権者、関係者との仲介に加わることにより事業をスムーズに進めることができた。	お互いの役割分担を明確にし、対等な関係で意見交換を行い、事業を進めることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働相手からの整備内容の要望意見に対し、限られた予算を効率的に執行しているが、お互いが合意するのに時間を要する。	行政の事務手続きは時間を要するため、事業の進捗を左右する。

No.	66	事業名	転害門前観光駐車場の運営
部名	観光経済部	課名	奈良町にぎわい課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6-01	観光		歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。	
	施策	6-01-01	観光力の強化			

相手方の名称	ミディ総合管理株式会社	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）	
平成３０年度事業費	予算額 2,920	決算額	2,920	（単位：千円）
事業の概要・目的	観光客及び市民の駐車の便宜を図るために駐車場を設置し、指定管理者制度にて運営管理を行う。			

目標指標	指標名	駐車利用台数の増						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	5,400	5,500	6,724	6,900	7,000
			実績値	5,970	6,625	7,297		

平成３０年度取組内容	月報の報告時など指定管理者と定期的に情報共有を行うとともに、たびたび現地への訪問も行った。施設の安全性、利便性の向上及び利用促進並びに経費節減に努め、利用者に喜んでいただける駐車場にするための管理運営を行った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3
	自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
	評価点		39	35

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	駐車場運営の専門的な経験から、大きなトラブルもなく安定した運営管理を行い利便性の向上に努めた。	転害門駐車場のおかれている目的や位置づけ等について理解することが出来た。またそれは今後の具体的な運用の参考とすることが出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	きたまちエリアの利便性向上のため、さらなる認知度のUPに努めるべく、情報の発信の強化が必要。	周りの民間駐車場と比較すると、その宣伝（案内方法含む）については不十分であると認識している。条例等の規制や予算の問題もあるが方法を検討する必要があるように思います。

No.	67	事業名	奈良市ならまち格子の家
部名	観光経済部	課名	奈良町にぎわい課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6-01	観光		伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。	
	施策	6-01-01	観光力の強化			

相手方の名称	ならまち格子の家指定管理者コンソーシアム	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）	
平成３０年度事業費	予算額 4,208	決算額	4,208	（単位：千円）

事業の概要・目的	ならまちの伝統的な町家を再現し、観光客及び市民の観覧と利便に供するとともに、町並み保全に資するために格子の家を運営する。

目標指標	指標名	入館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	100,000	105,000	100,000	115,000	120,000
			実績値	100,390	95,383	85,152		

平成３０年度取組内容	指定管理者と定期的に情報共有を行うことで、より良い施設運営を行った。また、奈良市から積極的に観光情報を提供し、地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
	評価点		38	38

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	奈良町内に所在する各施設との連携を図りながら企画運営することが出来た。	ならまち散策の拠点として、運営できた
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	訪日外国人に向けた新しい情報発信や企画を求める。	外国人旅行客が増えているので、それに合わせて施設の改修（特に洋式トイレ）を望みます。

No.	68	事業名	奈良町からくりおもちゃ館
部名	観光経済部	課名	奈良町にぎわい課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6-01	観光		伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。	
	施策	6-01-01	観光力の強化			

相手方の名称	特定非営利活動法人からくりおもちゃ塾奈良町	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成24年度	
平成３０年度事業費	予算額 6,990	決算額	6,990	（単位：千円）

事業の概要・目的	明治初期の雰囲気が残る町家の空間のなかで、からくりおもちゃを介して、訪れていただいたお年寄りや子どもたち、観光客などの世代間交流や地域間交流の場として活用することにより、ならまちの活性化及び奈良市の観光振興の拠点とするために奈良町からくりおもちゃ館を運営する。

目標指標	指標名	入館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	52,000	52,500	50,000	51,000	52,000
			実績値	46,227	40,972	37,625		

平成３０年度取組内容	地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図った。
今後の方針	拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	3	3
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	2
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	3
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	2
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		33	28

総合点	61
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	からくりおもちゃを通して、多くの観光客にに日本及び奈良の文化を紹介する事ができた。	お互いの特性を踏まえ、行政に依存することなく、補い合いながら得意分野に取り組むことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新しい企画や催しを行い、さらなる観光客の取り込みに期待したい。	行政と目的を共有したり、相互変革の意識や姿勢が持てるような場を持ちたい。

No.	69	事業名	旧鍋屋交番きたまち案内所
部名	観光経済部	課名	奈良町にぎわい課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6-01	観光		歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。	
	施策	6-01-01	観光力の強化			

相手方の名称	鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会	協働事業の実施手法	委託	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成24年度	
平成３０年度事業費	予算額 213	決算額	205	（単位：千円）

事業の概要・目的	奈良町のきたまち地域を訪れる観光客の利便を図るとともに、地域の活性化による観光振興に寄与することを目的として、まちかど観光案内所を設置する。

目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	10,000	10,500	6,000	6,500	7,000
			実績値	5,999	4,716	4,814		

平成３０年度取組内容	案内所の運営にあたっては、委託先適宜情報交換や協議の場を設けながら実施した。また、きたまち活性化イベントを共同で開催し、きたまち地域の魅力を発信し、施設の認知度を高めることができた。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		41	42

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	奈良女子大学との連携により、地域の活性化に繋がっている。また、地元の協力も得られ運営出来ている。	当会で開催しているイベントに共催頂き市民だよりに案内を掲載いただいたり、案内所の消耗品を購入いただいたりして助けていただいている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	引き続き、地域に根差した運営を行ってほしい。	当会のイベントへの共催、市民だよりへの掲載や備品の購入など助けていただいているが、物品等へのさらなる支援をお願いしたい。また、新にぎわい構想実現に向け引き続きご努力願いたい。

No.	70	事業名	史跡・名勝をめぐるウェルカムサービス～知って奈良とびらガイド～
部名	観光経済部	課名	観光戦略課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		②	観光客受け入れ体制の充実
	基本施策	6－01	観光		事業者・市民が奈良の歴史・文化を学び、奈良の魅力の理解の下、もてなしの心の醸成により、来訪者への充実したサービスの提供を図ります。	
	施策	6－01－01	観光力の強化			

相手方の名称	なら・観光ボランティアガイドの会	協働事業の実施手法	補助・助成	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成25年度	
平成３０年度事業費	予算額 100	決算額	100	（単位：千円）
事業の概要・目的	奈良市へ転入の届け出を行った世帯に、無料でなら・観光ボランティアガイドの会による観光案内を行う。			

目標指標	指標名	期間中の来訪者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	50	50	50	50	50
			実績値	11	10	3		
平成３０年度取組内容	転入届出窓口等で、積極的なPR活動に努めた。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		37	37

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	本市で暮らしはじめる方々に、奈良を知っていただき、地域の魅力を掘り起こしていただきながら、これからともに育んでいただくための第一歩として「おもてなしの心」で迎えることができた。	本制度を利用されたお客様は、他の市にはない制度で、奈良を知るうえで大変良かったとの声が寄せられている。今後とも積極的に利用推進について、取り組む必要性を痛感した。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	参加者の満足度は高いものの、認知度が低く、参加者が伸び悩んでいる。ポスター掲示に加え、新たな周知方法を検討。	今年度は、本制度のポスターを作成し、市役所市民課の窓口に掲示を行い、本制度の認知度アップに取り組んだ。今後はマスコミ等との連携を深め、さらに積極的な周知活動に取り組むこととしたい。

No.	71	事業名	奈良市きたまち転害門観光案内所運営事業
部名	観光経済部	課名	奈良町にぎわい課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6-01	観光		歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。	
	施策	6-01-01	観光力の強化			

相手方の名称	転害門前旧銀行跡建物活用協議会	協働事業の実施手法	委託	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成25年度	
平成３０年度事業費	予算額 1,677	決算額	1,671	（単位：千円）

事業の概要・目的	旧南都銀行手貝支店である奈良市所有の町家を改修し地域の団体と協働して、きたまちの観光客に対する観光案内や、観光資源の発掘及び調査研究、地域活性化の拠点などとして多目的に利用できる観光案内所として運営する。

目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	10,000	10,500	10,000	10,100	10,200
			実績値	9,353	8,103	7,381		

平成３０年度取組内容	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施した。また、きたまち活性化イベントを共同で開催し、きたまち地域の魅力を発信し、施設の認知度を高めることができた。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 4 3 2 1 ← ← → → できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	3
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
	評価点		35	35

総合点	70
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	観光客への利便性の向上及び地域の活性化に繋がる運営が出来た。	今年度は観光案内所の紹介掲示板や周辺の観光看板の設置をいただき、案内文についても、ご相談いただけたことは良かった。モニターとCD再生機を設置いただけたことで、ビジュアルによる観光案内が可能となった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後のきたまちの活性化の為に、お互い意見を出し合い協働していきたい。	きたまちを散策する方々が増えてきて、案内する上で奈良町界隈のマップは充実しているが、きたまち界隈のマップがなく苦慮している。今後、きたまちを紹介するマップづくりに協働して取り組みたい。

No.	72	事業名	奈良町南観光案内所運営管理
部名	観光経済部	課名	奈良町にぎわい課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6-01	観光		歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。	
	施策	6-01-01	観光力の強化			

相手方の名称	有限会社くるみの木	協働事業の実施手法	委託	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成27年度	
平成３０年度事業費	予算額 28,065	決算額	28,065	（単位：千円）

事業の概要・目的	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進する。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。

目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	50,000	50,500	51,000	51,500	52,000
			実績値	30,522	31,855	24,611		

平成３０年度取組内容	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進した。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
	評価点		43	45

総合点	88
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	民間ならではの手法で運営・経営を行う事により、行政では成し得なかった活性化をもたらすことが出来た。	行政との協働により、地域住民との良好な関係を持続でき、トラブルなく事業が続けることができた。弊社の特性をご理解いただき、尊重していただいており、安心して弊社らしく事業を遂行できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	少子高齢化により、人材不足という課題を乗り切るためにお互い創意工夫が必要である。	昨年に引き続き、行政との共同施設としての判断や手続きなど、相談に乗っていただき、間違いのないようサポートをお願いしたい。

No.	73	事業名	奈良町にぎわいの家運営管理
部名	観光経済部	課名	奈良町にぎわい課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		①	観光資源・施設の整備・充実
	基本施策	6-01	観光		昔ながらの暮らしや伝統文化が体感・体験できる体制を整えます。	
	施策	6-01-01	観光力の強化			

相手方の名称	奈良町にぎわいの家管理共同体	協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成27年度	
平成３０年度事業費	予算額 16,560	決算額	16,560	（単位：千円）
事業の概要・目的	奈良町を訪れる観光客、奈良町に暮らす住民、奈良にゆかりを持つ多くの人々が集う、奈良町に息づく歴史文化の発信拠点、にぎわい創出の拠点とするために奈良町にぎわいの家を運営する。			

目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	100,000	105,000	97,500	98,500	100,000
			実績値	96,018	93,247	93,006		

平成３０年度取組内容	指定管理者と定期的に情報共有を行うことで、より良い施設運営を行った。また、奈良市から積極的に観光情報を提供し、地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		38	38

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	町家や奈良町の文化の紹介のみならず、独自の企画で観光客や地元住民へのアプローチが出来た。	奈良町にぎわい課の情報やネットワークを通して、奈良町の生活文化を奈良町にぎわいの家の手法で表現し、来館者に発信できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地元を大切にしながらも、海外からのお客様へのおもてなしも重視してほしい。	奈良町の活性化および町家保存のための施策を相互に意見交換し、連動して目的に向かう関係を、今以上に構築したい。

No.	74	事業名	奈良工芸フェスティバル
部名	観光経済部	課名	産業政策課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第6章	経済		③	産業の支援と地域経済の活性化
	基本施策	6-04	商工・サービス業		奈良の伝統工芸と伝統産業の継承・発展のため、制作体験やイベント、インターネットを通じて情報発信を行い、工芸品等の販路拡大に努めます。また、緊急の課題である伝統工芸の後継者問題については、研修制度等により育成を支援します。	
	施策	6-04-01	商工・サービス業の振興			

相手方の名称	工芸作家		協働事業の実施手法	共催	
実施の時期	年1回		事業開始年度	平成元年度	
平成３０年度事業費	予算額	543	決算額	533	（単位：千円）
事業の概要・目的	毎年、秋期の正倉院展期間中に合わせて、なら工藝館では「奈良工芸フェスティバル」を開催し、一刀彫・赤膚焼等の工芸作品の特別展示、制作実演・体験などを通じて、奈良工芸に対する理解と認識を深める。また工芸品を期間中、特別販売することで工芸の振興発展に努める。				

目標指標	指標名	来場者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	6,300	6,350	6,400	6,450	6,500
			実績値	5,453	5,515	5,774	6,417	

平成３０年度取組内容	平成30年度は工芸フェスティバル30周年の節目の年となるため、特別企画展を実施する等例年よりも充実した内容となるよう工夫を図った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 4 3 2 1 ← ← → → できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**(行政)** 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**(行政)** 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
	評価点		37	42

総合点	79
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	工芸作品の展示のほか、制作体験教室の講師等工芸作家の協力抜きにはなし得ない事業がほとんどである。お茶会の実施や工芸品の人気投票などの企画を通して昨年度より来館者が増加し、より多くの人へ工藝館や伝統工芸の周知を図ることができた。	奈良市の協力により、地酒の試飲販売や、珠光茶会実行委員会の協力を得てお茶会の開催ができた。まちなか出前展は、市所蔵品の展示協力により、にぎわいのある事業展開ができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	若手作家からベテラン作家まで、工芸関係者が工芸フェスティバルにおける目標や理念を共有し、負担が偏ることなく全体で取り組むことが重要である。工芸フェスティバルへの協力が若手作家にとってもメリットとなるように、企画・立案を行っていくことが今後の課題である。	お茶席や地酒販売など事業の多様性を高めるためには奈良市との協働が不可欠で有り、感謝とともに今後も継続をお願いしたい。また、イベントに関わる、人・物・時間の調整を十分に重ねてゆきたい。

No.	75	事業名	「奈良しみんだより」の英訳
部名	総合政策部	課名	秘書広報課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第7章	基本構想の推進		①	市政情報の提供
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有		市政情報入手についての市民ニーズの把握に努めるとともに、しみんだよりやホームページなど多様な広報手段を利用し、それぞれの特色を生かして連携することで、有効な情報発信を行います。	
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進			

相手方の名称	奈良S.G.Gクラブ		協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	毎月		事業開始年度	–	
平成３０年度事業費	予算額	120	決算額	120	（単位：千円）
事業の概要・目的	日本語が分からない外国籍市民等に市政情報をお知らせする。				

目標指標	指標名	配置部数						
	単位	部／月	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	190	190	200	200	200
			実績値	198	195	195		

平成３０年度取組内容	行政は「奈良しみんだより」の掲載情報・資料を提供したり、印刷用紙を支給した。また、完成した英語版しみんだよりのPDFを市ホームページに掲載した。 活動団体は「奈良しみんだより」の英訳、英語版の印刷・編綴、各施設への配置、PDFでの市への提供を行った。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 4 3 2 1 ← ← → → できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
	評価点		42	43

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	外国籍市民等が増加する中、市政情報の需要も高まり、しみんだよりの英語版は必須となっている。ごみの出し方等の生活に必須の情報や、市役所での各種手続き案内など、外国語対応を急ぐ市政情報について、しみんだよりで毎月のお知らせを精度の高い英語翻訳で行えることは、日本語が分からない住民が安心して市で暮らすための一助となっている。さらには外国籍市民にもまちづくりへの参画を幅広く促すことにも繋がるため、今後とも力を入れて取り組んでいきたい事業である。	当クラブ翻訳委員会にはいろいろな分野で活躍した委員がたくさん在籍し「奈良市民だより」の英語版の発行に携わっている。 英語版市民だよりの発行は25年間以上、一度も途絶えていない。 就労のために奈良市内に居住する外国人は増加しており、地域での自治体情報や健康に関する情報等は国情の違いもあり大変重要である共に、利用している外国人には重宝されている。 行政のご協力により原稿の配信の電子化によるスピード化が進み、月初に発行ができた月があった。 配布先も以前より2個所追加された。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	しみんだよりが発行月の１週間前程で刷り上がるのに対し、英語版は発行月の月初に発行している。当課での編集スケジュールを前倒し原稿データを早く先方へ送付すること、また、先方での作業工程を迅速化して頂くことが解決策であるが、精度を維持する中ではどちらも難しい。双方でさらなる効率化をめざし、タイムラグを縮めていきたい。	英語版発行までの作業工程上では、市の協力のもとに電子化を進めて、工程上の無駄を少なくするように努力しているが、機械翻訳では出来ない正確な情報の発信のために、委員会内でのプレ校正の後、ネイティブの方による英文校正を確実に実施している。 在留外国人が立ち寄りそうな場所には、英語版市民だよりを置いてもらえるような活動も続行する。 奈良市観光協会の輪転機を使用してきたが老朽化により、他所での印刷オプションを検討中である。

No.	76	事業名	まちづくり振興事業「月ヶ瀬地域振興協議会」
部名	市民生活部	課名	月ヶ瀬行政センター　地域振興課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第7章	基本構想の推進		②	市政に対する提言、要望等の反映
	基本施策	7－01	市政情報の発信・共有		「新市建設計画」を着実に実施し、月ヶ瀬地域振興協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をまちづくりに反映させます。	
	施策	7－01－01	開かれた市政の推進			

相手方の名称	各種団体・自治会等	協働事業の実施手法	実行委員会・協議会	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成17年度	
平成３０年度事業費	予算額　1,700	決算額	1,700	（単位：千円）

事業の概要・目的

月ヶ瀬地域における将来のまちづくりについて協議を行うほか、地域の振興等を図り。もって奈良市の発展に資する。

目標指標

指標名	会議の開催回数						
単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		目標値	24	24	24	24	24
		実績値	13	14	14		

平成３０年度取組内容

行政として、イベント補助金の交付、市・県等関係課及び機関等への連絡調整、協議会事務局として支援を行った。活動団体としては、地域のまちづくりに関することや新市建設計画に伴う要望活動、進捗状況に関することの会議の開催、地域伝統文化の保存及び振興に関すること、地域イベント等の企画及び実施に関すること（夏まつり・スポーツフェスティバル・体育祭・マラソン大会）等を行った。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価

5 ← 4 ← 3 → 2 → 1

できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった

協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点		37	37

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域の振興を目的として地域の団体が連携し、事業を企画、実施し、自主運営による地域の活性化並びに地域コミュニティの形成ができた。	地域イベントについては、地域団体や住民が一体となって、活性化に向けての取り組みができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域組織としての自主的な活動の充実強化のため、リーダー、後継者の育成が不可欠であり、自立化を進め行政との役割分担を明確化し、今後の組織の在り方、方向性について具体的な検討の場を持ち、話し合っていく必要がある。	自立化に向け組織の在り方等話し合っていく必要があるので今後も協働を図っていきたい。

No.	77	事業名	都祁まちづくり協議会
部名	市民生活部	課名	都祁行政センター地域振興課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第7章	基本構想の推進		②	市政に対する提言、要望等の反映
	基本施策	7－01	市政情報の発信・共有		新市建設計画を推進するため、都祁まちづくり協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をならづくりに反映させます。	
	施策	7－01－01	開かれた市政の推進			

相手方の名称	地域住民(都祁まちづくり協議会)	協働事業の実施手法	補助・助成	
実施の時期	通年	事業開始年度	平成17年度	
平成３０年度事業費	予算額 3,500	決算額	3,500	(単位：千円)
事業の概要・目的	1. 住民要望の取りまとめ及び新市建設計画の進捗に関すること。2. 地域間交流事業(農業体験交流事業)3. 地域振興事業(都祁高原マラソン大会)			

目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,600	1,620	1,640	1,660	1,680
			実績値	1,487	1,596	1,577		

平成３０年度取組内容	都祁地域の自治会・自治連合会へ協力を呼びかけ、住民要望の取りまとめを行う。地域交流事業として、農業体験交流事業を実施した。4月には、参加者を募集し、5月から茶摘体験、スズラン・ホタル自由観賞、ブルーベリー採り、収穫体験、吊るし柿・しめ縄作り体験と1年をとおして農業体験をしてもらい地域間交流を図った。まちづくり活動においても、地域振興事業の一環として市内外からの参観者を迎え、11月に都祁高原マラソン大会を実施。都祁の名を全国各地に発信し、地域活性化に繋げた。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	3	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		3
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
	評価点		31	32

総合点	63
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	一体的なまちづくりを進めるための新市建設計画の推進や、都祁地域の振興及び地域間交流の場として農業体験交流及び都祁高原マラソン大会を実施し、都祁地域の持っている魅力を発信することができた。	互いの特性を発揮しながら、役員会等で十分な協議を重ね情報共有を行うことで、都祁地域の活性化につなげることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	活動団体の自主活動の充実と、強化のためのリーダー養成及び確保。	行政との関わりや、協働における役割分担の明確化を図りながら、まちづくり活動を展開していく。

No.	78	事業名	地域の未来についての懇談会（令和元年度より、「地域ミーティング」に変更）
部名	市民活動部	課名	地域活動推進課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第７章	基本構想の推進		①	市民参画及び協働の推進
	基本施策	7-02	市民参画・協働		市長が地域に出向いて地域活動に取り組む各種団体と対話を行い、地域の課題に対する認識を共有し、協働して解決に向けて考える場として、「地域ミーティング」を開催し、地域と行政が協働して、住みよいまちづくりの実現のために取り組みます。	
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営			

相手方の名称	奈良市自治連合会		協働事業の実施手法	共催	
実施の時期	通年		事業開始年度	平成２５年度	
平成３０年度事業費	予算額	0	決算額	0	（単位:千円）
事業の概要・目的	市長が直接地域に出向き、地域活動に取り組む各種団体の役員と対話を行う中で、地域課題に対する認識を共有し、地域・行政が協働して解決に向けて考えていくことを目的に、平成25年10月から「地域ミーティング」を実施。平成29年度に開催手法の見直しを行い、平成29年12月からは、地区単位ではなく奈良市自治連合会のブロックを単位として、市長が地域を訪れ、地区の主要四団体の役員との対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化を図ることを目的に「地域の未来についての懇談会」として開催している。				

目標指標	指標名	開催地区数						
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	30	35	40	41	42
			実績値	23	25	31		

平成３０年度取組内容	平成30年度は6ブロック27地区で「地域の未来についての懇談会」を開催し、その後実施手法を再度見直し、中学校区単位で「地域ミーティング」を実施することとなり、2中学校区（4地区）で実施した。
今後の方針	継続　拡大、縮小、廃止の理由

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 4 3 2 1 ← ← → → できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	**(行政)**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
	自立化	**(行政)**協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		39	39

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「地域の未来についての懇談会」では、市政と地域の未来についての理解を深め、意見交換を通して、行政と地域間の情報共有とパートナシップの強化が図られた。「地域ミーティング」では、　地域課題について地域・行政双方が認識を共有するとともに、その課題解決が進められた。また、両事業の開催により、地域の各団体の役員が一堂に会することで、各地区における「地域自治協議会」設立の気運の醸成につながった。	「地域の未来についての懇談会」では、市長と各ブロックの主要四団体役員が奈良市から示された共通の内容についての対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化が図れた。地域ミーティングでは、その地域ごとに抱えている課題について地域・行政が共有し、課題解決が図られた。奈良市自治連合会として取り組まなければならない課題も見え、地域自治協議会設立の機運も高まった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	「地域ミーティング」では、開催地区や課題の偏りがあったため、平成29年度の途中に開催手法の見直しを行い、「地域の未来についての懇談会」として開催することとなったが、市の説明が大半で話し合いの場になっていないなどの意見を受けて再度見直しを行い、改めて「地域ミーティング」として、話し合いたいテーマの提出をしてもらい、より多くの地区で実施できるよう中学校区単位で実施することとなった。	各地域と行政が情報や意見交換等交流の場を持ち、対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化を図ることが必要である。

No.	79	事業名	HUG²（はぐはぐ）祭り
部名	市民活動部	課名	協働推進課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第7章	基本構想の推進		①	市民参画及び協働の推進
	基本施策	7-02	市民参画・協働		市民参画と協働によるまちづくりを総合的・計画的に推進するために、本市で実施し、又はこれから実施しようとする協働事業を実施計画として策定した「奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画」に基づき、市民参画と協働を進めていきます。	
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営			

相手方の名称	市民公益活動団体	協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	5月～12月	事業開始年度	平成26年度	
平成３０年度事業費	予算額 49	決算額	49	（単位：千円）

事業の概要・目的	市民に、ボランティアや市民公益活動団体の様々な活動について知っていただくとともに、その魅力を伝え、ともに活動したり支援したりするきっかけをつくり出すこと、また市民公益活動団体の情報交換や交流の機会創出を目的に、ボランティアインフォメーションセンターにおいて、HUG²（はぐはぐ）祭りを開催する。

目標指標	指標名	HUG²祭り参加者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	660	695	760	780	800
			実績値	770	744	1,146		

平成３０年度取組内容	HUG²（はぐはぐ）のサポーター団体を募集し、5月よりサポーターズ会議を月に1回開催し、市民公益活動団体と職員で協議を重ねた。 企画の段階から準備、祭り当日の運営及び進行も市民公益活動団体と職員と協働で行い開催した。

今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた / 少しできた / どちらとも言えない / あまりできなかった / できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
	評価点		39	39

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	行政・団体が互いに得意分野を発揮し、短所を補い合うことで、相乗効果を生み出し、イベントの成功につながった。	・多くの来場者があり、団体の紹介やPRができた。 ・年々参加団体が増え、活性化して素晴らしい。 ・ボランティア団体が一堂に会すいい機会だと思う。 ・他の団体の方々とのつながりができ、よかった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	団体の活動を、より効果的に市民に知ってもらうための方法を探り、また、団体・市民がより気軽に参加できるよう、祭りの日程や内容を検討する。	・来場者を増やすことばかりでなく、各団体の活動をより知ってもらうための工夫が必要。 ・イベントを通じて、普段個々に活動している団体相互の交流を図り、団体同士の協働を生み出す。

No.	80	事業名	租税教室の開催（講師の派遣）
部名	財務部	課名	市民税課

総合計画上の位置付け				展開方向		
	章	第7章	基本構想の推進		①	健全な財政運営
	基本施策	7-04	行財政運営		財源確保への取組を強化し、財政基盤の安定化を図ります。	
	施策	7-04-01	効率的な行財政運営			

相手方の名称	奈良税務署管内　租税教育推進協議会		協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	11月～1月頃		事業開始年度	平成20年度	
平成３０年度事業費	予算額	0	決算額	0	（単位：千円）
事業の概要・目的	国、奈良県、県内市町村、学校教育機関及び関係民間団体等で組織する奈良県租税教育推進連絡協議会事業の一環として、奈良税務署管内　租税教育推進協議会が開催する租税教室に職員を講師として派遣する。				

目標指標	指標名	市職員の講師派遣を継続して行う						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1	1	3	3	3
			実績値	2	3	4		

平成３０年度取組内容	講師の派遣を希望する小・中学校、高等学校、専修学校と調整しながら、派遣職員の育成を行い、事業を実施した。		
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由	

平成３０年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた　少しできた　どちらとも言えない　あまりできなかった　できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	**（行政）**協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	自立化	**（行政）**協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
	評価点		43	42

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	

総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	職員を講師として４校に派遣し、次代を担う市内の児童・生徒に、税の仕組み、役割、機能等の租税に関する知識を持ってもらうことで、納税意識の向上を図り、将来的な自主財源の確保につながった。協議会が派遣先の募集等をとりまとめ、各協働先との調整を行うことで、事業をより効率的に進められている。	市職員が租税教室の講師を協働することにより、学校側が希望する日程で租税教室を開催することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	開催日程が繁忙期と重なると、事前に十分に準備ができない場合がある。また、税制改正等により職員一人当たりの事務量が増え、派遣する人員の確保が困難になりつつある。	引き続き市職員の講師派遣を増やしていただくとともに、市立の学校への租税教室の開催勧奨についてお願いしたい。 また、市職員が講師を協働する際には、市税の使われ方など、市役所ならではの身近な題材を取り入れた授業に取組んでいただくことを提案したい。